

日 時 平成30年9月19日(水) 午前10時 開 議

出席議員 (15人)

1番	北山一衛	2番	三上廣大
3番	高橋美紀子	5番	工藤禎子
6番	佐々木隆	7番	後藤秀憲
8番	工藤和行	9番	大久保朝泰
10番	大溝雅昭	11番	工藤和子
12番	福士幸雄	13番	工藤俊広
14番	村上啓二	15番	中田博文
16番	村上隆昭		

欠席議員 (1人)

4番 今大介

出席要求による出席者職氏名

市 長	高 樋 憲	副 市 長	有 馬 喜代史
総 務 部 長	小 林 清一郎	企 画 財 政 部 長	阿 保 正 一
健康福祉部長兼 福祉事務所長	千 葉 毅	農 林 部 長 農業委員会事務局長併任	高 谷 倉 英
商工観光部長 商工課長事務取扱	真 土 亨	建 設 部 長	鳴 海 真 一
総 務 課 長 選挙管理委員会事務局長併任	鳴 海 淳 造	秘 書 課 長	鈴 木 正 人
市民環境課長	館 山 江	企 画 課 長	中 田 憲 人
税 務 課 長	花 田 浩 一	福 祉 総 務 課 長	成 田 浩 基
介護保険課長兼 地域包括支援センター所長	工 藤 春 行	農 林 課 長 兼 バイオ技術センター所長	佐 藤 久 貴
観 光 課 長	佐々木 順子	都 市 建 築 課 長	樋 口 秀 仁
農業委員会会長	木 立 康 行	選 挙 管 理 委 員 会 委 員 長	山 田 明 匡
監 査 委 員	今 田 貴 士	教 育 長	山 内 孝 行
教 育 部 長 兼 市民文化会館長	成 田 秀 範	学 校 教 育 課 長	藤 田 克 文
社会教育課長兼 青少年相談センター所長	八木橋 寿	文 化 ス ポ ー ツ 課 長	今 井 保 雄

会議に付した事件の題目及び議事日程

平成30年第3回黒石市議会定例会議事日程 第2号

平成30年9月19日(水) 午前10時 開 議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 市政に対する一般質問

出席した事務局職員職氏名

事 務 局 長	三 上 亮 介
次 長	幾 田 良 一
次長補佐兼議事係長	宮 本 節 造
主 査	佐 藤 宏 亮

会議の顛末

午前10時02分 開 議

◎議長(北山一衛) ただいまから、本日の会議を開きます。

本日の議事は、議事日程第2号をもって進めます。

◎議長(北山一衛) 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

11番工藤和子議員、16番村上隆昭議員を指名いたします。

◎議長(北山一衛) 日程第2 市政に対する一般質問を行います。

順次質問を許します。

2番三上廣大議員の登壇を求めます。2番三上廣大議員。

登 壇

◎2番(三上廣大) おはようございます。平成30年第3回市議会定例会におきまして一般質問をさせていただきます。新政会の三上廣大でございます。

質問に先立ちまして、9月6日に発生した北海道胆振東部地震により犠牲となられた方々に対し謹んで哀悼の誠をささげますとともに、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。地震の規模はマグニチュード6.7、厚真町では北海道で初めて記録されたという最大震度7という数値でありました。

昨今頻発する自然災害。当市においても先日の台風21号の上陸により被害を受けております。幸いなことに人的被害はなかったものの、浅瀬石・中部公民館に合わせて8名の避難者があり、

市内440戸において停電、暴風による倒木や飛散物による被害等が確認されております。また、9月5日時点のりんご等の被害状況であります。りんご被害面積14.4ヘクタール、落下箱数1万1,970箱、倒伏72本、折損33本、被害率及び落下率は1.2%とのことであります。その他、市内6件のビニールハウスにおいても損傷が確認されております。

前回定例会においても壇上より申し上げましたが、現在、市内各地において取り組んでいる自主防災組織の整備・充実はもちろんのこと、現在、震度6強の地震により倒壊または崩壊という診断結果を受けているこの市役所庁舎であります。先般の大阪府北部地震、そして、このたびの北海道胆振東部地震と頻発する大地震災害を考えたとき、市民の命と安全・安心を守るためにも、有事の際に災害拠点となるべき市役所庁舎の早期建てかえを進めていかなくてはならないと、改めて強く感じた次第であります。

それでは通告に従いまして順次質問をさせていただきます。

まず、当市の祭りについて、黒石ねぷた祭り、黒石よされ、それぞれのことしの開催状況についてお伺いいたします。特に黒石よされについては、大雨により開催初日の全てのイベントが中止になってしまうハプニングがありました。15日、当日午後3時の段階では実施が決定しており、その後、最終決定については午後4時半となっておりますが、悪天候の上、警報が出されたこともあり、中止の判断が出されたのは夕方5時過ぎでありました。多くの観客と当日の参加団体、そして、ことしからインターネットで運用資金を募るクラウドファンディングの返礼であった栈敷席での流し踊り見物など、それぞれに黒石よされを楽しみにしていた多くの方々に影響が出ました。また、私も2日目の流し踊りへ、地元東地区より参加させていただきましたが、2日間の雨の天気と初日の中止の影響もあってか観客数の少なさと、昨年と比べ少し盛り上がり欠けたように思われました。このことについても、ことしの開催状況と合わせて、担当課はどのように考えているのかお聞かせください。

次に、市長と10地区との意見交換会についてお聞きいたします。

ことしは7月18日、牡丹平地区よりスタートした市長と10地区との意見交換会も、先日10日の浅瀬石地区を最後に終了したと聞いております。

私の地元東地区では先月22日に公民館を会場に開催され、私もオブザーバーとして出席させていただきました。意見交換会の流れであります。まずは地区からの提案テーマ、東地区では「高齢者見守り事業のマニュアル整備について」、その後、市提案テーマとして「子ども会・子ども会育成会」、「コミュニティビジネス」、「消防団、自主防災組織、高齢者宅除雪、ごみ分別」、それぞれについての意見交換がされました。

各テーマにおいて、市長の思い、そして地区の思い、現状など、9月定例会一般質問前ということもあり、私自身大変参考になりました。同時に、高樋市長の政策の柱とも言うべき、

「黒石力（地域コミュニティ力）のさらなる」強化、これに向けクリアしなければならない今後の課題・問題についても見えてきたように思います。

さて、その地域コミュニティの拠点となるべき公民館についてであります。現在、東公民館では事務員不在の状態が長く続いており、公共職業安定所をとおしての募集、また、地区の方々のつてをたどっての募集とさまざま手を打っているものの応募はなく、私も何名かの方にお声をかけさせていただきましたが、結局、待遇を理由に断られてしまうのが現状であります。

今後の公民館のあり方や職員の待遇については、議場においてこれまでも議論してまいりました。先日の東地区の意見交換会の中でも、先ほど申し上げた現状から、公民館の指定管理について、職員の募集を市で面接・採用してはくれないかといったため息まじりの意見・要望が出されておりました。

そこでまずは、私自身その場に同席してはおりましたが、確認の意味を含め、東地区提案テーマである「高齢者見守り事業のマニュアル整備について」、担当課と東地区との意見交換の詳しい内容について、市提案テーマの中で、今回は特に「コミュニティビジネス、子ども会・子ども会育成会について」に絞り、10地区との意見交換の詳しい内容についてお聞きします。

また、公民館職員の採用については、指定管理の制度上、市で面接・採用というのはなかなか厳しいかと思いますが、この意見に対しての担当課の見解と、職員募集に対し応募がないことの大きな要因となっている職員の待遇とその改善についても合わせてお聞きします。

最後に、担当課はこれまでの10地区意見交換会で出された意見や問題・課題を、今後どのように黒石力向上に生かしていくのか。以上の点について御答弁願います。

なお、公民館指定管理の質問につきましては、コミュニティビジネスに絡んだ再質問をさせていただきたいと思っておりますので、事前に担当課にお話しさせていただいたとおり、イの項目における答弁をよろしく願いいたします。

次に、当市のスポーツ推進計画についてお聞きします。

文部科学省では平成23年8月24日施行のスポーツ基本法に基づき、平成24年3月スポーツ基本計画を策定し、県では青森県スポーツ振興計画にかわり、平成28年度より青森県スポーツ推進計画を策定しております。当市においては、平成27年2月に健康都市宣言を行い、一市民一スポーツを掲げ、スポーツ推進にかかわる各種事業を展開してきたことと思っておりますが、このたび平成30年3月より新たに4つの基本目標を柱とした黒石市スポーツ推進計画を策定し、新たな取り組みがスタートしております。

そこで、計画策定後、現在までの事業実施状況についてとスポーツ推進計画の中に掲げられております4つの基本目標それぞれに当てはまる事業について、具体的な事業名と取り組みについてお知らせください。

最後に、2025年本県にて開催予定の第80回国民体育大会についてお聞きします。青森国体について、平成28年第4回定例会に引き続き質問させていただきます。

本県では1977年（昭和52年）第32回大会以来48年ぶりの開催となり、2023年の78回大会以降は、名称についても国民体育大会から国民スポーツ大会へと名称が変更となる予定であります。そして、当市においては、スポカルイン黒石においてバドミントン競技が開催されることが内定しております。国体は全国から各競技者、競技関係者、スポーツファンら多くの方が本県を訪れ、そして、この黒石市を訪れることと思います。当市にてバドミントン競技が内定し開催まで7年。青森国体バドミントン競技開催へ向けた当市における準備の進捗状況についてお伺いいたします。

以上、壇上からの質問を終わります。今回も市民の皆様からいただいた御意見・御要望をもとにしっかりと議論してまいりたいと思っております。理事者の皆様の誠意ある前向きな御答弁を期待するものであります。ありがとうございました。

（拍手）

降 壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登 壇

◎市長（高樋憲） 三上廣大議員にお答えいたします。私からは、市長と10地区の意見交換に
ついての中黒石力向上に向けた取り組みについて答弁させていただきます。

黒石力とは、行政を初め、町内会や住民組織で構成する地区協議会などが、地区の価値を高めたり、課題を解決したりするなど、地区の活力を高めていく総合的な住民の力のことであります。

黒石力向上の取り組みでありますけれども、黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略に記載する政策を継続していくほか、地区の各種団体の人材育成や組織強化を図り、コミュニティビジネスを活用することにより地区の課題を解決し、地区活動の充実・活性化を図ることができるよう、行政と地区協議会が一緒になって取り組みを検討してまいります。

また、現在作成中であります第6次黒石市総合計画におきましても、住民主体のまちづくりを支援するとともに、地域住民が主体となり実施するコミュニティビジネスの展開についても総合計画の柱として位置づけていきたいと考えております。黒石力を高めることにより、市民と行政の協働のもと、「誇れる故郷くろいし」の実現に努めてまいります。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（阿保正一） 私からは、市長と10地区協議会との意見交換会における市提案テ

一マ、コミュニティビジネス、子ども会・子ども会育成会について答弁させていただきます。

地区協議会との意見交換会は、地区協議会と市の目指す将来的なコミュニティのあり方について意見交換を行う場を設定するために平成27年度から実施しているもので、4年目になります。ことしは、7月から9月にかけて10地区を巡回し、これまでで一番多い229人の方々と活発な意見交換を行ったところであります。テーマに沿った意見交換の中で各地区が抱える懸案事項が見えてきましたので、今後、それらの課題を市としても支援しながら、一つ一つ克服していきたいと考えております。

市提案テーマに対する地区からの意見でございますが、市ではコミュニティビジネスを、「地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組み」として定義しており、地区からは、「路線バスは、なくなるイメージがあり、一人暮らしも多くなっている。それらの問題を解決しなければならないと思う」、また、「具体的な内容のひな形を提示してほしい」などの意見をいただきました。これに対しまして、市としては、「行政だけで解決できない問題を地域と一緒に解決していきたいと考えており、今後、条件や細部を詰めた上で、再度、地区協議会へ提案し協議していきたい」と説明したところでした。また、コミュニティビジネスの取り組みに関する可能性について詳細な質問が出るなど、意欲的な地区も複数ございました。

次に、子ども会・子ども会育成会に対する地区からの意見でございますが、「子供が減少して活動が難しく、活動費を集めるのも厳しくなっている」、「全ての子供が加入するわけではなく、子ども会の名簿を作成するのに学校から情報提供されないケースも出てきている」、「リーダー研修などを実施して人材育成を行ってはどうか」などの意見をいただきました。それに対して、「市として、リーダー研修は、参加者を募集しても集まらないのが現状であり、どのような方法がいいのか、やり方を工夫していきたい。また、意見のあった課題に対して応援できることを整理した上で、市内全地区において、全ての小学生が入学時に子ども会に加入できる制度を検討していきたい」など説明したところであります。

続きまして、公民館職員の処遇改善と公民館職員の募集などを市で行えないかという御質問でございますが、現在、地区協議会長の御意見・御要望などをお聞きしながら、公民館職員の処遇も含めた指定管理者制度の検証を進めております。これにより、今後、公民館のより円滑な運営を図りたいと考えてございます。

なお、公民館職員の募集につきましては、これまで市広報に掲載するなどし、地区協議会の職員募集へ協力しているところであります。私からは以上であります。

◎議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（千葉毅） 私からは、市長と10地区の意見交換会についての東

地区提案テーマ、高齢者見守り事業についてのマニュアル整備についてお答えいたします。

昨年、この事業が始まった際、簡単なマニュアルを配付していましたが、緊急時や異常時の対応を盛り込んだものを整備してほしいとの意見があったことから、その後、見直ししてマニュアルを改訂し、ことし1月31日に行われた10地区協議会長との意見交換会の席で、各地区協議会長に新しいマニュアルを提示しました。そして、後日、市の担当が見守り者全員分を配付する予定でしたが、先般、各地区に確認したところ、配付されていないことがわかりましたので、9月の見守り活動実施に合わせ、各地区に対して見守り者全員分のマニュアルを配付いたしました。

今回配付したマニュアルについては、今後も必要があれば随時更新してまいります。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 私からは、当市の祭りの黒石ねふたと黒石よされについて答弁いたします。

ことしのねふた祭りの状況についてであります。7月30日、8月2日の合同運行の観客数はそれぞれ3万6,000人、3万1,000人の計6万7,000人で、昨年より2,000人の増加となりました。両日とも天候に恵まれ、地元はもとより、県内外や海外からの観光客も来場し、期間中は大きな事故もなく、無事、祭りを終了することができたところです。

運行参加台数は、人形ねふた3台を含め52台、昨年より2台減少となりました。昨年度創設した「黒石市人形ねふた製作運行奨励補助金」前ねふたの部に関しましては、昨年より2台増加し16台の申請があり、子供たちの祭りへの参加促進と後継者育成の一助となったと考えております。

次に、黒石よされについてですが、ことしの黒石よされの状況について、8月15日は悪天候のため、午後の「津軽民謡組踊り共演」と夜の「黒石よされ流し踊り」は中止となりました。16日も雨天のため、午後の子供たちがメインで参加する「歌って踊ろう♪みんなでよされ」を市役所内メイン会場から、急きょスポカルイン黒石アリーナへ場所を変更し実施をいたしました。雨天が続き、この日の夜の流し踊りも開催が危ぶまれましたが、奇跡的に晴れ間がのぞき、予定通り開催することができました。流し踊り終了とともにまた雨が降り始め、「おどりはだり」は中止となりました。

観客数については、開催期間8月15日から20日までの期間中で2万1,100人となり、1日目の中止の影響もあり、昨年の8万200人から大幅な減少となりました。

参加団体については、申し込み団体は31団体で昨年より1団体減少したものの、新規申し込み団体が3団体ありました。2日目は16団体の参加で、3年ぶりに陸上自衛隊が参加するなど、

総勢1,300人の踊り子で、直前までの雨を吹き飛ばすような盛り上がりを見せたところであり
ます。

1日目の中止や会場の変更等で、遠くからお越しの方々や楽しみにしていたの方々、そして、
参加団体の皆様には大変申しわけなく残念に思っております。祭り本番は天候に恵まれません
でしたが、今週末青森市で開催される「あおもり10市大祭典」、来月東京都中野区で行われる
「東北復興大祭典なかの」でも黒石よされが披露されることになっております。黒石よされの
すばらしさ、楽しさを、大いにPRしてまいりたいと思っております。

次に、黒石よされの中止の経緯と影響ということでございますが、悪天候時の中止決定につ
いては、大雨注意報が発表されていたため、例年より早く午後2時ころ第1回目の黒石よされ
実行委員会役員会を開催いたしまして、予定通り開催するという決定をまず出しました。しか
しながら、雨や雷がひどくなる一方で、周辺の地域で大雨警報も発表されたことから、午後4
時30分ころ第2回目の役員会を急きょ開催し協議した結果、踊り子や観光客の安全面も考慮し、
中止を決定いたしました。その後、午後6時27分、黒石市にも洪水警報が発表されました。

中止になったことに関しまして、「もっと早くに決断してほしかった」、「広報車で市内を
回り周知してほしかった」、「メイン会場へ行ったところ中止の案内表示はあったが、対応す
るスタッフがいなかった」など、意見や苦情が寄せられておりました。市におきましても、ホ
ームページや商工観光部のSNSで早急に周知を図ったものの、1回目の発表を覆しての中止
決定により、祭りの衣装を着て準備されていた参加団体の皆様への周知が遅くなったこと、祭
りを楽しみにしていた観光客への対応は大変申しわけなく思っておりまして反省するべき点で
あると思っております。以上であります。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 私からは、黒石市スポーツ推進計画の事業実施状況
と基本目標について、2025年青森国体についての当市の準備状況についてお答えいたします。

まず、黒石市スポーツ推進計画の基本目標についてですが、本計画では、4つの基本目標を
掲げております。

1つ目の、「ライフステージに応じた一市民一スポーツの推進」では、具体的な取り組みと
して、市内の各団体の活動を市広報等での紹介や、初心者向けの各種スポーツ教室の開催を掲
げております。

2つ目の、「学校や地域における子どものスポーツ機会の充実」では、地域で保護者と子供
が一緒に参加するスポーツ教室の開催や、市内小・中学校と連携して児童・生徒の体力や運動
能力の向上を掲げております。

3つ目の、「競技スポーツの推進」では、競技スポーツ指導者の養成やトップアスリート

招いてのスポーツ講習会の開催、全国大会等に出場することとなった児童・生徒の支援を掲げております。

4つ目の、「スポーツ推進のための環境整備」では、スポーツ振興の推進役となるスポーツ推進委員の発掘・育成や、市内スポーツ施設の指定管理者となっている公益財団法人黒石市体育協会と連携し、効果的かつ効率的な施設の運営に努めることを掲げております。

次に、それをもとにしての事業実施状況であります。8月26日に開催いたしました市民運動会では、幼児と保護者が参加する種目を追加したことにより、幅広い世代の参加がありました。

レクリエーションスポーツの普及については、市内各種団体等の行事に出向く「おしかけ講座」、市内各小学校への実技指導や出前講座の依頼に対応した、市スポーツ推進委員の派遣を行って、さまざまなスポレクを行っております。また、青森県民駅伝競走大会へ、当市の代表として出場する中・高校生を中心とした若手の育成や支援等も実施しております。

続きまして、2025年青森国体に係る当市の準備状況でありますけれども、本市では2025年開催の第80回国民体育大会に係る会場地市町村の第一次選定にバドミントン競技が内定しております。

準備状況についてですが、来年10月に中央競技団体が黒石市を訪れ正規視察が予定されております。当面、それらに係る視察要項の作成、当日行われる概要説明会の準備、競技会場の視察などへの対応となります。正規視察後に県に視察報告書を提出することになっており、視察員から指摘等があった場合には青森県バドミントン協会と協議し、大会の成功に向けて取り組んでまいります。以上であります。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） 御答弁ありがとうございました。ちょっと順番を変えて、3つ目の黒石市スポーツ推進計画についてから再質問を順次行っていきたくと思います。

今の事業の実施状況についてはわかりました。これはことしの3月に策定されたばかりのものでありますので、これからどういう事業実施がされていくのか、動向を見ながら、私もまた議会で再度取り上げさせていただきたいと思っていました。

私、個人的にこれは大切だと思うのは、イの基本目標についてです。基本目標4つ、柱となる目標でありますけど、スポーツ推進計画でありますので、これを行政側だけが把握していても意味がないと思うのです。スポーツの推進につなげていくためにも、まずは市民の方々にこの4つの柱のもとに計画を進めているんだということを理解してもらわなきゃいけない。そ

のためにも、各目標に合わせた事業実施をきちんと当てはめて、わかりやすく進めていかなくてはならないと思っておりますが、そのあたりについては、担当課としてはどのように考えてますでしょうか。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 事業計画については、公民館や学校には配布しているところであります。また、機会あるごとに広報等を使ってはPRしていきたいと考えているところです。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） いろんな関係団体、また体育協会さんともしっかりと連携して、これから取り組んでいただきたいと思えます。

次、4つ目の2025年青森国体について再質問させていただきます。国体が48年ぶりに青森県に来るということで、正直、黒石市がバドミントン会場になると、本当に大変私も驚いていると同時にうれしく思っています。これは、一大イベントでありまして、全国からこの黒石市に競技者・関係者・バドミントン愛好者が集まります。単に競技だけで集まるのではなくて、ついでに観光していこうかなという方もいらっしゃると思うのです。そうなってくるとまた課をまたぐ話になってきますので、まずは、バドミントンの競技関係者が、おおむね黒石市に何人くらい来るのか、その数字はどういうふうに把握していますか。お願いします。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 競技関係者というのは選手だけではなくて、コーチとかその辺も含めての話だと思う……。

（「関係者です」と呼ぶ者あり）

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 関係者。その辺はまだ、今のところは正式にはこちらでも把握しておりません。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） これからまた県とも協議しながら進めていくと聞いておりましたので、ぜひともそのあたりは早目に把握していただきたいです。先ほど申しましたとおり、これは一大イベントで、黒石市を全国にPRできるチャンスではないかなと私は考えているんです。会場だけではなくて、周りでも何か観光客の方に楽しんでいただけるように、観光の受け入れ態勢の整備については、市でどういうふうに考えていらっしゃるのかをお聞きしたいと思います。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） バドミントンの会場として内定していただいているところであります。体育協会とも、館長がバドミントンの全国の理事等も務めたりしていたこ

ともありまして、いろいろな話を聞かせていただいております。一番のネックになっているのが宿泊の部分で、全国から来た場合、黒石には宿泊施設が足りないんじゃないかと。弘前も競技会場になるので、ちょっとネックだなというふうな話はしております。あとは、黒石温泉郷から会場に来るための交通機関も弱いところがあるので、今後の検討課題になるなとか。あと、観光とかPR、お土産品等に関しては、我々のところでは答弁しづらいところもありますけれども、今からどういう対応をしていけばいいか話しているところであります。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） わかりました。最後にぜひ市長のほうから、青森国体のバドミントン競技が黒石市で開催となる予定であります。観光の部分も黒石市のPRの部分も含めて、市長はこのことに関してどのようにお考えになっているかお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（北山一衛） 市長。

◎市長（高樋憲） 国体、48年ぶりに開催していただくと。そういう状況なので、今回は県全体で役割分担をしています。国自体もこの国体に対する取り組みも大分変わってきています。オリンピックもそうですけども。ただ単に経費をかければいいということではなく、使えるものはうまく使いながらも経費を圧縮し、そして、おいでになった選手の方、また関係者の方々みんなを、県全体でおもてなししていこうという流れが強くなってきていましたので、当市におきましても、市民みんなでおもてなしの心を大切にしながら、楽しんでバドミントン競技に参加していただける環境づくりにこれから努めていきたいと考えております。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） ありがとうございます。まだ開催までは7年あるということでございますので、しっかり経過を見守っていききたいと思います。

次に、当市の祭りについて、1番目に戻って再質問させていただきたいと思います。ねぷた祭りについて、ことしは天気が大変よくて観光客数も伸びていると、プラス2,000人ということで、大変うれしく思っておりました。ことしは52台の出陣がありましたが、来年また台数が減るんじゃないかというような話がちらっと聞こえてきていますけれども、担当課ではそのあたり何か入っている情報などありますでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 市といたしまして、公益財団法人黒石青年会所に確認はしておりますが、現時点では減少するという情報は得ておりません。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） ひとまずそれを聞いて安心したところであります。やはり市民の方々も台数減少については大変気にしておりまして、私のほうにもいつもねぷたに関してのいろんな意

見や要望等をいただいております。私が前回ねふた祭りに関する質問をさせていただいたのが平成29年6月議会でありました。当時、松井商工観光部長から御答弁いただきおりましたけれども、内容はそれとほぼほぼ変わらないんですけれども、同じ内容で質問させていただきたいと思います。

私もねふた祭りに参加して各団体さんを回ってお話を聞くと、今までどおりの祭りでこのまま継続してもいいという意見と、根本的に祭りを見直していかなければいけないんじゃないかという声と、半々なように私自身は感じておりました。前もちょっと言ったんですけれども、平川市さんのねふたが大変盛り上がりおまして、黒石ねふたの祭り期間中も団体の運行を休んで、平川市のねふたを見に行くという町内さんもあるくらいです。もちろん参考になればと思って見に行っただけの方もいるんでしょうけれども、純粹に平川市のねふたが楽しいと、すごい盛り上がりを見せているということでもあります。黒石とは祭りの開催する趣旨が違うのかなとは思いますが、そのあたりについて、部長はどのようにお考えになってますでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） ねふたにつきましては、まず、ねふたの持つ意味合いですね。これは伝統継承だったり、コミュニティだったり、観光、いろいろな意味合いを持っていると思います。このことを含めまして、これから各団体で、それぞれの運行している方々の意見を聞いて、今、意見がいろいろあるということでしたが、一つにまとまるかどうかわかりませんが、まずは、皆さんの意見を聞いて、それをどのような方向で集約していくかを、これからやっていきたいと思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） そのほか、運行のコースについても、こみせ通りは今電柱の地中埋設化をしているところであり、そうなるとももちろん広くはなるんですけれども、どうしてもこみせ通りだと狭すぎるという声も頂戴しております。八間道路とか大きい通りでのねふた運行を将来的に考えていくことはできないものかと。あと、開催日数についてもいろいろ御意見を伺っておりました。7日間のうち全部の台数が集まる合同運行は、2日間だけあります。初日と8月2日。その間に地区の合同運行はあるんですけれども、それ以外はほぼほぼ運行せずに休んでいる団体もあるわけですね。このままいくと合同運行、地区も合わせて3日間以外は、最終日も含めて、どんどん運行台数が減っていくんじゃないかなと私は危惧しておりますけれども、そのあたりについてはどうでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） まず、コースの件なんですけど、今、議員さんもお

っしゃったとおり、こみせ通りでは、今電線類の地中化で、これから運行環境とか景観の向上が図られます。黒石ねふたは県の無形民俗文化財に指定されていますが、これを市の代表する重要伝統的建造物群保存地区のこみせ通りでやる、ここが黒石の一つの見どころでもあり、まずは考えております。

もう一つ、八間道路ですが、以前、青年会議所さんで検討したことがあると聞いております。その内容は、あそこは主要地方道に位置づけられている幹線道路でありまして、大型車両や緊急車両などの通行確保のために片側通行でやらなければいけないということでありました。その場合、祭りの参加者の安全確保、迂回路の調整などがかなり困難だということでも聞いております。八間道路の幅員は、現在、富田大通りで運行しておりますけれども、そちらの幅員と同等となっております。以上であります。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） いずれにしても、今後の黒石ねふたのあり方をさらに検討していただきたいと思います。前回は質問いたしました、例えば市民の方との意見交換だったり、青年会議所とのやりとりだったり、今、どのような形で進めているのかをお知らせいただきたいと思っております。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 大変申しわけない、私、期間を言い忘れていました。先に期間を言ってからもう一度。期間ですけれども、ねふた祭りの最終日が七日日と言われているところで、7日間を一つの祭りの期間と認識しておりますが、現状では全て運行している団体は少ないものと、状況を把握しております。こちらにつきましても、これから皆さんの意見を聞いていきたいと思っております。

いろんな打ち合わせをどのようにしているかということですが、まず、実施団体である青年会議所と平成29年度から直近までで3回いろいろ協議しております。そのほか随時意見交換もしております。そのほか参加団体説明会やねふた祭り反省会にも市でも出席しまして、情報の共有も行っております。協議の内容につきましては、昨年度は奨励金の補助、ねふた作成の後継者育成、あとは祭り会場について主なものが議題となっております。今後、いろいろな議員さんの提案も含めまして、来年度の祭りに向けて、これから協議を重ねてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） 私個人的には、もう少し黒石ねふたは観光化の方向にかじを切っていくのもいいのかなと思っております。これは提言にさせていただきます。これもコミュニティで成り立っている祭りでありますので、細かなものから意見等を吸い上げて、少しでもよいねふ

た祭りにしていただければと思います。これも引き続きまた質問をさせていただきたいと思っておりました。

次に、黒石よされでありますけれども、これは正直言っていろんな意見を聞いております。これは8月28日の津軽新報に掲載されていた記事です。先ほど答弁の中にもありましたけれども、女性の方なんか特に、髪の設定とか着付け等、男性に比べ時間もかかるわけでありまして。また、地区によってはバスの手配とかお弁当の手配なども全て行ってしまった後に、さあ行くぞとなったときに中止になってしまったと。これは、お金の問題ではなく、これも市長の掲げるコミュニティ力、それを担っている協議会などから、地区でこうやってみんな協力しているんだから、もう少し早目の連絡とか連携できないものかということなど、いろいろ意見を頂戴しました。改めてそのあたりについて、どのようにお考えにかお聞きしたいと思います。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 先週末に開かれました流し踊り委員会の反省会に出席してきましたが、今回混乱を招いた最大の要因は、流し踊り参加団体に事前に周知している開催可否の決定時間を変えて早い段階で一旦開催を決定した後に、再度決定を覆して中止をしたことによるものではないかという意見が出されました。今後は事前に周知した流し踊り実施の決定時刻は動かさないということにし、仮に中止となった場合は速やかに関係機関への連絡、ウェブ等での周知、そのほか観光客には会場内アナウンス等周知に努めることを確認しました。また、これから全体反省会や黒石よされ実行委員会の総会のほうもありますので、これをさらに煮詰めて、有効的な手段を図って行きたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） また記事のほうに戻るんですけども、これは私もぜひきょう質問したいなと思っていましたんですけども、提案ですかね。まず1点目が、天候が悪いのは前もってわかっているわけですから、代替イベントも私は必要なんじゃないかなと思います。例えば開会式やその後の流し踊りもスポカルイン黒石で、少し規模は小さくなりますけども、せっかく着物を着て県外から来て踊りたいという人もいる中で、そういったものもこれから考えていかなきゃいけないのかなと。現に先日の市民運動会はスポカルイン黒石で開催しているわけです。なので、それは天気の部分を見越して、スポカルイン黒石での開催もというのを視野に入れて動いていたわけですから、よされについても配慮してやっていただきたいと思います。あともう1点、クラウドファンディング。私も正直ホームページ見て、大変びっくりしたんですけども、目標金額が50万円。これに対して72万4,000円という金額が集まっていました。最高額が10万円ですか。10万円の資金提供者はいないんですけども、旅の宿斉川に1泊して、栈敷席がつくとか、そういった部分の楽しみもあったわけなんですけれども、結局中止になった。クラウド

ドファンディングでお越しになった方々も、もちろん県外の方が多いわけでありますので、そういった方たちへの対応、例えば中止になった分、何か別なものでお返すとか。現に東京とかいろんなところによされを発信しているわけです。せっかく発信して全国の人に知ってもらっても、開催の当日にこういうことがあってしまえば台なしになってしまうんじゃないかなと思うんです。そういったものも含めて、今の以上2点について、どのように今後考えていかれるのかをお聞きしたいと思います。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） まず、雨天時の代替施設ですが、先ほども申し上げました流し踊り委員会での反省会でも、悪天候により屋外開催が不可能となった場合の対応について、場所を変えても踊りたいという要望も多いということで、屋内で踊っていただける体制づくりに向けて検討したいという意見も出ました。これにつきまして、来年度に向けまして具体的にこれから議論していきたいと思います。

次、クラウドファンディングの方への対応につきましてですが、まず、栈敷席の方々もおられたんですが、15日は8人のお客様がおられました。この方々については、場所が中町の盛家の2階ということで雨には当たらなかったんですが、お食事をしていただきまして、黒石よされ実行委員会の方々がおもてなしをしたと聞いております。また、そのほかの方々につきましても、黒石市へわざわざ来ていただいている方がたくさんおられると思いますので、そこいら辺につきましてもこれから協議を重ねていきたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） ぜひともそのあたり今後対応していただきたいと思います。

最後に2つ目の市長と10地区の意見交換会について。まずは、東地区提案テーマからいきたいと思います。マニュアルの配付がおくれてしまったということですが、配られたと思っていました。地区の方とか見守りにかかわっている方にお話を聞くと、少しずつ、最初の時期よりは落ち着いてきたのかなと。問題や課題も見えてきたんじゃないかなという気はしてはいるんですけども、まだまだ個人情報の取り扱いとか、今後しっかり対応していかなきゃいけないのかなと思っております。

1点だけ再質問、個人情報の取り扱いについて、このマニュアルにも記載はされているのかなと思うんですけども、担当課として基本的にはどういうふうに個人情報の取り扱いをお考えになっているのか、再度お伺いしたいと思います。

◎議長（北山一衛） 健康福祉部長の答弁の前に、先ほどの質問の中での答弁の訂正の申し出がありましたので、教育部長から答弁の訂正をお願いいたします。教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 訂正ではないんですけども、先ほど人数、関係者が

どのくらい来るのかということでありましたけれども、青森国体の場合はまだ把握はしていないということには変わらないんですけれども、ことしやった愛媛国体では約800人の選手と関係者が集まったということでもあります。以上であります。

◎議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（千葉毅） 個人情報の取り扱いについてですが、現在、高齢者地域見守り事業対象者の名簿につきましては、個人情報保護の観点から、各地区協議会へ配付して、事業終了後、毎月市に返還していただいております。この名簿は地区ごとに名簿管理者を定めまして、また、事前に市に提出した方に限定しております。そのほか、名簿を閲覧するのは実際見守り事業を行っている方々になるわけなんですけれども、この方々についても同様に、一旦地区で見守りが終わった後、毎月市に戻していただいているという形をとっております。この高齢者地域見守り事業につきましては、この見守り事業を受けたいという方のみ手挙げして実施しております。ただし、個人情報をほかの機関に提出してよいかという同意を得ておりませんので、その辺については、今後いろいろ検討課題があるのかなと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） わかりました。次に、市提案テーマ、コミュニティビジネス、子ども会・子ども会育成会についての質問に移りたいと思います。最初壇上でも申し上げたんですけれども、公民館職員の待遇に絡んでというか、実際、まだまだコミュニティビジネスという言葉が市民の中に浸透してないというような印象を持っております。地区、もしくは市民の方の中には、公民館の指定管理もコミュニティビジネスの一つなんじゃないかという考えを持っていらっしゃる方も実際いらっしゃるんですね。現に、このコミュニティビジネス、今後どういうふうに展開していくかはまだわかりませんが、いずれにしても地区の拠点となる公民館がかかわってくるわけでありまして。そうしたときに今後の公民館のあり方というものをもう一度考えていかなければならないと思うんですけれども、まずはコミュニティビジネスという言葉の市民の認識の部分について、担当課ではどのようにお考えになっていらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（阿保正一） 先ほども答弁いたしました、コミュニティビジネス、地区の課題をビジネスの手法を用いて解決していただきたいということで、今回、意見交換の中で説明を申し上げ、意見をいただいたところでありますが、今後、より広く市民の方への周知を図ってまいりたいと考えてございます。

◎議長（北山一衛） 制限時間が11時3分までです。残り時間5分を切っておりますので、進行

上、御協力お願いしたいと思います。2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） 年に1回の地区の意見交換会のみならず、定期的にコミュニティビジネスについて説明と、今後、市としてどういうふうな方向でコミュニティビジネスを進めていきたいのか。意見交換会の中ではコミュニティバスの運行という部分で出ていましたけども、多少厳しいことを言わせていただきますと、地区の方々は、「まだうちのほうに仕事をおろすのか。これ以上はちょっと厳しい」と、これが現実の声であります。なので、そこはしっかり行政側が説明をして、ここは私たちがサポートしていきます、でもここは地区で何とかお願いできないでしょうかと、お互い理解をしっかりとし合えるような関係をつくっていきながらも、こういう政策を進めていかなければいけないと思っているんですけれども、そのあたり、市長はいかがお考えでしょうか。

◎議長（北山一衛） 市長。

◎市長（高樋憲） 今回はテーマをコミュニティビジネスに絞って意見交換をさせていただきましたけれども、日本の国全体が人口減少社会になっていく、そういうときに、今までの行政のあり方では対応できなくなるというのは、多くの方々もそれは認めざるを得ないのかなという感じはいたしております。その際に、役割分担を明確にしながら協働のもとで支え合える社会というのは、私は必ずや必要になってくるものだろうと思っています。そういう前提のもとで、今回、地区協議会との意見交換会から始まりまして、一人暮らし高齢者地域見守り事業、そして今回コミュニティビジネスに発展させていくわけでありまして、今、三上議員のお話もありましたように、もっと我々も市民にも丁寧に説明をさせていただきながら、また、意見交換をさせていただきながら、私どもが進もうとしているものが将来必ずや評価していただけるものだという気持ちで、これからも挑んでいきたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 2番三上廣大議員。

◎2番（三上廣大） 最後に1点だけ。最初にも申し上げましたとおり市長にお伺いしたいと思います。今これからさまざまな新しい取り組みが始まっていくんですけれども、公民館職員は、今の待遇では一旦やめると人も入ってきません。何とか待遇の改善をお願いしたいと、毎回私も強く要望を受けております。まさに今、先に取り組んでいかなくてはならないことだと私は思っておるんですけれども、市長、何とかその辺、公民館職員の待遇について動いていただくことはできないでしょうか。最後をお願いいたします。

◎議長（北山一衛） 市長。

◎市長（高樋憲） 先ほど担当部長からも答弁させていただきましたけれども、そもそも論でいきますと、この指定管理者制度を行わせていただいて約10年近くなるわけでありまして、今までこれを検証してこなかった、このことに対しては、我々行政サイドとしては反省しなければ

ばいけないものだと思っております。その上で、地区連絡協議会の今後のあり方、あるいは公民館のあり方、また、それにかかわる方々の人選、待遇等、そういうものを全てもう一度ちゃんと検証した上で、公民館職員の人件費がどうあるべきか、あるいは、公民館職員の待遇がどうあるべきか、その辺をしっかりと整理した上で考えていかなければいけない問題だと思っております。

◎議長（北山一衛） 以上で、2番三上廣大議員の一般質問を終わります。

◎議長（北山一衛） 次に、3番高橋美紀子議員の登壇を求めます。3番高橋美紀子議員。

登壇

◎3番（高橋美紀子） 議席番号3番、高佑会 高橋美紀子でございます。ただいま議長よりお許しがございましたので、壇上より、平成30年第3回黒石市議会定例会一般質問をさせていただきます。負託を受けましてから、毎回、質問の機会をいただいておりますことに、改めて心から感謝申し上げます。

この夏は、6月、プール沿いのブロック塀が倒れ登校途中の小学生が下敷きになり亡くなったほか4人の犠牲者を出した、大阪府北部の直下型地震。7月、西日本を中心に降り続いた記録的な大雨により、さらに多くの死者、負傷者を出した、平成30年7月豪雨。そして今月初め、台風21号の被害直後に発生した、平成30年北海道胆振東部地震。北海道では初めて観測されたという震度7を記録し、液状化現象や広範囲の土砂崩れ、大規模停電に見舞われました。被災されました皆様に心からのお見舞いを申し上げます。そして、亡くなられた皆様の御冥福をお祈りし、心よりお悔やみを申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復興を、心よりお祈り申し上げます。

それでは通告に従いまして質問に入らせていただきます。

1つ目の質問は、当市のインバウンド対策についてです。

当市のインバウンド研修も3年目。私も1年目から参加させていただき、学ばせていただいております。飲食店、宿泊施設、観光施設などの事業者が集まりグループに分かれ、それぞれの立場からの視点を持ち寄り、同じ目的意識で、1年目は外国人観光客を迎えるに当たり何が必要なのかを確認し合い作成する作業を重ねてきました。

市外に出向くと意識して外国語表記のものを写真におさめたり、外国語のパンフレットに目を向けたりするのが習慣になりました。当市のパンフレットも外国人観光客に対応したものも登場していますが、これからますます、より効果的なものができてくるものと期待したいものです。

北海道新幹線の開業に伴う、海外で人気のある北海道と組み合わせたツアーや台湾などへの

輸出によるりんごの知名度、青森空港の定期国際空路、青森港への客船寄港などにより、青森県を訪れる外国人観光客は東北6県の中でトップだと聞いています。県の知名度向上や商品造成に向けた取り組みや独自のコンテンツPRが生きてきているようです。

東京オリンピックも控えている今、インバウンドがもたらす経済効果を考えたとき、本市としてもその機会をものにすべく整備を早急に進めることが必要になります。歴史的建造物群であるこみせ通り、上質な泉質と情緒あるたたずまいの温泉郷、東公園の桜、夏の山の緑、田んぼや畑の風景、りんごの木、中野もみじ山の紅葉、冬の雪景色、おいしいお酒やお食事。これらは外国人の好きなアイテムであり、他の観光地にも負けない当市の日本的な要素です。

昨年のインバウンド研修におきまして、慶応大学と千葉大学のさまざまな国からの外国人留学生6名と1泊2日黒石ツアーに同行し、その後もメールでやり取りしていますが、「日本にいた中で一番日本を感じ、楽しい体験や、すてきな人々との出会い、おいしいお酒お料理だった。また、ぜひ訪れたいと」のメッセージをいただいています。外国人観光客を意識した整備は、日本人観光客にとってもよい部分があるようです。自信を持って当市の環境を整え、多くの国内外の観光客を迎えたいものです。

先月、今年度の取り組みの一つである、インバウンドの先進地である飛騨高山研修がありました。外国人観光客を受け入れるに当たり、スムーズに対応されている事業主さんがおっしゃるには、言葉の壁は習うより慣れろだったり、本市でも研修で作成した指差しシートがありますが、お店やお宿で必要となる会話の外国語シートを用意し、今は困ることが余らないようです。

先週末、東京品川の中延商店街でのねぶた祭りに黒石から境松ねぶたが出陣し、黒石よされ踊りの参加、黒石焼きそば出店のお手伝いに行きましたが、外国人が家族連れで楽しむ姿も多く見られました。タクシーの運転手さんも、場所によって国に偏りはあるけれど、あらかじめ日本語で書かれたものを用意していたりマナーを心得ていたり、困ったことはほとんどないそうです。ただ、中国からの観光客が多い函館の運転手さんからは、どこに行きたいのかがわからなかったり、決めていないまま乗り込みまっすぐ行けというジェスチャーに従い進むと、少し進んだところで降りるという動作でドアを開けると、そのまま未払いで行ってしまったりといったマナーの悪さなどがあり、旅行客がふえることで問題点はさまざまのようです。

そこで質問です。これまでのインバウンドの取り組みについて、現状と課題について、また、今後の取り組みについて教えてください。

2つ目の質問は、当市の農業についてです。

多くの方が、少子高齢化、人口減少、財政難などにより、将来に不安を持っています。若者は外に出てゆき、残った住民は高齢化し、社会政策上の負担は増加が現状です。農家に至って

も、農家戸数の減少や農業従事者の減少や高齢化、後継者不足、働き手不足とすこぶる深刻です。農業や農村は衰退しているという印象は否めません。実際に調べてみますと、農業従事者2000年389.1万人から192.2万人に減少。平均年齢は、2000年66.1歳、2016年66.8歳。農家数・農業就業人口の減少・高齢化は進んでいますが、農業に関心を持つ若者は増加しています。新規就農者数は、1995年4.8万人、2013年7.7万人、2016年7.9万人と年々増加。中でも44歳以下は、2013年1万6,020人、2016年1万9,202人増。男女別では、男性2013年3万9,220人、2016年4万4,960人、女性2013年1万1,580人、2016年1万5,190人と、新規就農の若者が男女ともにふえています。法人などで従業員として農業に年間7カ月以上従事している人は、2013年5,270万人から2016年には7,410万人に増加しています。農業経営体の数は、2010年167万9,000経営体から2016年131万8,400経営体に減少傾向ですが、農産物の生産を行う、または、委託を受けて農作業を行っている法人組織体の数は、2000年5,272経営体に対し、2016年には2万800経営体に増加。一般法人の農業参入の推移は、さらに2010年761法人から2016年には2,676法人に、3.5倍にふえています。近年、企業の農業参入が増加傾向にあり、安全性が高く安心な原料を確保したい企業や観光農園・農村レストランなどを経営する企業がふえています。新規雇用就農者数の増加は、これが背景にあるようです。

黒石の安入地区で栽培している、今年で2年目になる、みちのく銀行主催の木村秋則自然栽培米酒倶楽部に私も昨年より継続参加しておりますが、若い方や、Uターンの方、サラリーマンからの転身と、これまで農業に携わらず、これからかかわっていきたいという方ばかりです。

新宿区で開催された日本版CCRC説明会に以前参加した際、老後、畑をつくりながら田舎で生活したいと話す方も複数いらっしゃったり、また、学生や若い方、特に女性が農業に興味を持っているのをよく聞きます。自然栽培仲間の女性たちでつくった会のメンバーの中には、農業に従事しながら農カフェを開いている方、観光農園を開いている方がいますが、ネットで見て興味を持ち、南東北や関東から見ると聞いておりますし、農業とレストランに新規参入した知り合いもおりますので、この数字は実感できます。

現在、さまざまな問題を抱えておりますが、私は、これからの日本は農業に未来があると感じております。米とりんごで培われてきた当市です。時代が変わり、昔とは耕法だったり栽培法が違ったり、業態が変わったりですが、市長がおっしゃる田園観光都市として当市が栄える、そのために、基幹産業として農業に携わる方がふえ、豊かになっていくことを望んでいます。そのために尽力したいと考えています。

それではまず、当市における農業の現状を知りたいと思います。

質問です。農業で生計が成り立っている農家数と過去3年間の推移について、当市の認定農業者制度の視点から教えてください。次に、当市の経済を担う産業の中で、他産業と比較した

場合の農業の位置づけについて教えてください。最後に、当市における農業の課題と対策についても質問させていただきます。

最後の質問です。当市の行財政改革についてです。

公衆に奉仕する者、あるべき姿の公務員という意味の公僕。お役所文化、お役所仕事、安定した職など、公務員に対する言葉は、そのときどきいろいろ聞きます。市役所窓口対応職員や黒石病院の看護師さんの言動も、すごくよかった、すぐ対応してくれた、優しかったという評価もあれば、真逆もあります。市民の皆様の職員に対する評価は、どこのサービス業や企業でも同じであるように、人は欠点を探すほうが得意だという言葉聞いたことがあります。親切にしてもらって当たり前なところがどうしてもあるようです。

市民の税金で成り立っているのだから、時間までしっかり働いてほしい、鉛筆1本、封筒1枚まで大事に使ってほしいとの願いがあります。私は、職員さんに接し、プリント済みのコピー用紙の裏を再利用し、デスクや椅子も年季が入っているものばかりなのを知っています。財政難だから当たり前とは言っても、壊れかけているのも多いです。このように備品は辛抱している感がありますが、時間や効率的な業務といった面ではどうでしょう。よく、市民も庁舎を回されて、結局最初のところで用が足りたとか話されている方もいますし、複数の課にまたがった事業など、もっと横の連携がとれていたらどうなのだろうか、複数のかかわる課が一緒になって取り組んだほうがいいのではないかと思うことがありますが、効率的な業務の取り組みについては、どのようにしているのか教えてください。また、日常業務における、職員のコスト意識についての認識も教えてください。最後に、行財政改革の今後の取り組みがありましたら教えていただきたいと思います。

以上、壇上からの質問を終わります。理事者の皆様よろしく願いいたします。ありがとうございます。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 高橋美紀子議員にお答えいたします。私からは、当市の農業についての経済を担う農業としての位置づけについて答弁させていただきます。

当市では第一次産業である農業を基幹産業と位置づけております。製造業、建設業などの第二次産業、商業、福祉、医療などのサービス業である第三次産業などと比較し、農業が当市の経済に与える影響は、生産性や就業人口数等を見ても、他産業とは大きな差がある状況であります。

当市での産業を支える農業は数字以上の影響力があり、生活をする上で最も必要となる「食」

を支える重要な役割を担い、農業が経済の根底を支えていることが他産業の発展に結びついて
いるものと考えております。その農業を、他産業に負けない、他産業と遜色のない所得確保の
実現に向け、認定農業者、認定新規就農者の増大を図るとともに、農業が生涯の職業と位置づ
けられるよう、今後も関係機関と連携し、さまざまな取り組みを積極的に実施してまいります。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 私からは、当市の行財政改革についての、おおむね3つの御質問と
お伺いしましたが、それにお答えしたいと思います。

まず、効率的な業務の取り組みについて、複数の課にわたる事業、それから、複数でやるべ
き事業についての御質問にお答えさせていただきます。

業務内容が複数の課にわたる場合、複数の課で諸手続が必要となる場合がございます。この
場合におきましても、市民や企業の利便性の向上に努めること、それから、それぞれの課の職
員が効率的に業務を行うことが、行政サービスを提供する上で非常に重要な要素になるものと
認識いたしております。これまでも、複数課で業務遂行を行う場合におきまして、課同士の連
携を図るために連絡会議を設けるなどして、事前に互いの情報を共有し、必要な手だてを講じ
ております。

続きまして、コスト意識についての御質問にお答えしたいと思います。

職員の事務的な経費へのコスト意識につきましては、平成20年11月に策定されました黒石市
行政財政運営方針に基づいて、効率的な行政運営のため、現在においても引き続き徹底した予
算の適正執行と経費節減の意識を持って日々業務に従事しているところでございます。

具体的な事例といたしましては、昼休み中の電気の消灯、不用となった用紙や封筒の再利用
などが定着しているところでございます。また、職員提案制度の活用によりまして、行政事務
の改善や事務効率の向上、職員のコスト意識の醸成など、市政の進展に寄与することに努めて
いるところでございます。

続きまして、行財政改革の大もととなります行政改革大綱についてお答えさせていただき
たいと思います。

現在の第六次行政改革大綱につきましては、人口減・高齢化社会が避けられない中で、効率
的な行財政運営を目指して、平成27年度から平成31年度までの5年間を期間として策定してご
ざいます。これにつきましては、毎年10月に行政改革大綱に掲げた主要施策の進捗状況をチェ
ックしているところでございます。

今後の行政改革大綱の策定に当たりましては、来年度が第六次行政改革大綱の最後の年とな

りますので、まずは、平成27年度からの5年間を総括して、課題や積み残しを洗い出し、対応策を検討することといたしております。

また、次期の行政改革大綱につきましても、5年間の総括結果を踏まえて、現状の行政需要をはかり、取り組むべき課題を明確にした内容とし、当市の行財政改革に資するものとしてと考えております。私からは以上でございます。

◎議長（北山一衛） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 私からは、当市の農業について2件お答えいたします。まず、農業で生計が成り立っている農家数とその推移ということで、認定農業者制度の概要と過去3年間の認定農業者数の推移からお答えいたします。

認定農業者制度は、地域の実情に即した農業経営の展開を図るため、農業経営基盤強化促進法に基づき、本市が定めた「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」に示した農業経営の目標に向けて、みずからの創意工夫に基づいた農業経営改善計画を、市が認定する制度であります。

基本的な構想の中では、他産業従事者と遜色のない水準となるよう、年間農業所得530万円程度を確保することができる経営体を育成することを目標に定めており、過去3年間の認定農業者の数は、平成28年363経営体、平成29年341経営体、平成30年7月末現在では325経営体となっており、農業就業者の高齢化及び減少に伴い、その数は減少傾向にあります。また、新規就農者につきましては、農業経営開始から5年後に農業で生計が成り立つ年間所得額として認定農業者の5割程度の265万円を目標に定め、計画が認定されている認定新規就農者の数は、平成28年14人、平成29年21人、平成30年7月末現在では26人と増大している傾向となっております。

次に、課題と対策です。農業を基幹産業とするための課題と対策でございます。

本市では、稲作・りんご・高冷地野菜を農業振興の柱として、特色のある地域農業を目指し、黒石ブランドとしての農産物の生産と販売に取り組んでいるところであります。しかしながら、農業を取り巻く環境というのは、全国的に農業就業者の減少や高齢化が進行する中、農繁期における労働力や担い手不足などが、農地集積や規模拡大、さらには農業を継続する上での課題となっております。

今後、持続可能な力強い農業を実現するため、次世代を担う農業者の育成・確保に向けた取り組みとして、国や県の補助事業等により実施する各種支援事業のほか、市単独事業として、経営力や技術力の向上を目的に、青年農業経営塾「夕学講座」の実施や、都市に暮らす方々が一定の期間黒石市に滞在し、就業体験を通じて地域の人たちとの交流や伝統文化を体験していただき、将来的には定住に結びつくよう、「ワーキングホリデー黒石」など、特色ある事業を

展開しているところであります。

また、女性農業者の行動力、意識改革を進め、農業における女性の存在感や地位向上を図るため、「次世代を担う女性農業者パワーアップ事業」を実施しており、女性が職業選択肢の一つとして農業を選ぶことにより、課題である労働力の確保や今後必要となる人材力の強化を図り、若者たちが希望を持てる強い農業と活気ある農村の創出を目指すこととしております。以上であります。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 私からは、インバウンド対策についてお答えいたします。

当市のインバウンド対策のこれまでの取り組みについてですが、国の東北観光復興対策交付金を活用しまして、平成28年度から市内観光関連事業者を対象としたインバウンド観光勉強会を開催しております。また、平成28年度には、外国人向けの英語版黒石市観光PR動画を作成し公開したのを初め、宿泊施設や飲食店などでの接客に活用できる指さしシートの作成、外国人留学生によるモニターツアーを実施いたしました。

平成29年度は、インバウンド観光勉強会、モニターツアーに加え、外国人向けの温泉の入り方・浴衣の着方ガイドを作成し、訪日外国人観光客の受け入れ環境の整備・充実に努めております。

次に、現状と課題についてであります。平成30年度も継続してインバウンド観光勉強会を開催しており、今年度は4回の実施を計画しております。また、外国人の接客に重点を置いた実践的な英語学習会を、5月から来年2月まで、昼の部・夜の部ともに、それぞれ20回の予定で開催しております。さらに、青森空港や新青森駅、JR弘前駅から黒石市を訪れる外国人観光客を意識した周遊ガイド作成のためのワークショップを2回開催いたしました。

特に3年目を迎えたインバウンド観光勉強会では、先月2回目を実施し、議員からもお話がありました。先進地視察研修として、市内観光事業者など約30人が岐阜県の飛騨高山地域を訪問しております。現地では4つのグループ別にテーマを設定し研修を行ったのを初め、インバウンド対策に関して旅館や飲食店の店主から生の話を直接伺ったり、実際に訪れている外国人観光客に英語で話しかけたりするなどの研修に取り組んでまいりました。

参加者からは、「言葉が通じなくても接客は笑顔と心であることに気づかされた」といった感想や、「おもてなしの心は黒石市民全員が共通認識として持つ必要がある」といった意見が寄せられ、市としましても大変意義のある研修であったと受けとめております。

ことし7月31日に観光庁が発表した宿泊旅行統計調査確定値によると、昨年、青森県の外国人延べ宿泊者数は過去最多の26万人を数え、前年からの伸び率は62.5%で全国トップクラスに

位置しています。このような状況を踏まえ、県内を訪れる外国人観光客をいかに黒石市へ呼び込むかが市としての課題となっております。

これまでの勉強会や先進地研修などに参加されてこられた観光関連業者には、外国人観光客の受け入れ気運が醸成されつつありますが、今後は、事業者間のさらなる連携と主体的な取り組みに期待しているところでございます。

次に、今後の取り組みについてですが、市はこれまで、市内観光関連事業者を対象とした勉強会を開催したほか、近年、増加傾向にある大型クルーズ船の青森寄港に合わせ、弘前圏域定住自立圏観光推進協議会を構成する自治体職員が合同で、J R弘前駅などにおいて外国人観光客に対する観光PRを行ってまいりました。

大型クルーズ船関連の取り組みとしては、今年度から青森港国際化推進協議会へ加入したことに伴い、クルーズ船寄港時に青森港で外国人観光客に直接触れ合うことが可能となりました。今後は、青森港においての当市の観光PRのほか、外国人観光客の興味・関心を探るためのアンケート調査などを実施していくこととしております。

また、今年度のインバウンド観光勉強会関連の取り組みとしては、先進地研修に参加したメンバーの報告会とワークショップを10月3日に開催し、「外国人観光客受け入れに必要なこととして取り組めることは何か」と題しまして、市内観光関連事業者が、さらに議論を深めることとなっております。

さらに、今年度から一般財団法人自治体国際化協会（通称：クリア）に職員を派遣しており、来年度から2年間、オーストラリア・シドニー事務所に勤務することとなっておりますので、現地での情報収集や当市への外国人誘客促進のきっかけづくりを期待しているところでございます。以上です。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） 今のインバウンドに関しての再質問をさせていただこうと思います。とし3年目に入りますけれども、これまでの取り組みで、こういうことがわかったとか、新しい発見などがありましたら教えてほしいと思います。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 平成28年度と平成29年度の2回行ったモニターツアーでは、外国人観光客は、日本の伝統文化や歴史に触れること、和食や地域独特の料理、自然景観、歴史的建造物や神社仏閣に加え、地元の人たちとの触れ合いを求めていることがわかりました。また、これらの観光資源そのものだけではなく、それに付随する歴史や背景などを

知ることからも満足を得ている傾向にあるようです。

外国人観光客は、地元の人との交流を期待しており、人の親切さやフレンドリーさを評価し、リピーターや口コミにつながる可能性があることも知ることができました。

外国人観光客にとっては、私たち市民が何気なく見過ごしている日常の中にも興味や関心を示す事柄もあるようです。今後は、外国人目線による観光資源の掘り起こしにも取り組んでまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。私もそのツアーに参加、同行していたんですけども、そのツアーのもとの計画は、研修の中で私が入っているグループのものが採用されて、そのときのテーマが、「人とのぬぐもりを感じる旅」というものでした。外国人の方々にその点が受けたというところを私もうれしく思います。

青森県が東北の中では観光のトップだと聞いておりますけれども、その中でも黒石市内の、たしか宿泊者数でカウントされていたかと思うんですが、宿泊者数と外国人宿泊者数の推移がわかれば教えてください。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） まず、平成28年の市内全体の宿泊者数は4万6,614人、このうち外国人の宿泊者数は1,530人で、その割合は3.28%でした。平成29年は、市内全体で4万4,257人、このうち外国人は2,336人で、割合は5.27%となっております。平成30年につきましては、1月から7月までの7カ月間の数値となっておりますが、市内全体の宿泊者数は2万1,639人、このうち外国人が1,059人、割合は4.89%となっております。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。今の数字を見ていると、今期の1月から7月までだと4.89%、昨年1年間だと5.27%となっていることから、これから、8月以降の観光客が多いというような、季節に分けるとそういうところでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 駅前観光案内所の外国人訪問者のデータを見ますと、やはり夏場のねふた、よされ、それともみじ山の問い合わせが多いということで、やはりイベントがある時期に多く来られているものと思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） もみじ山はこれからの時期ですので、これからまた上がるんじゃないかという予想ということですね。

どちらの国から多く来ているのかはわかりますでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 黒石駅前の観光案内所のデータですが、平成29年度は1位が台湾、2位が中国、3位が香港となっております。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。台湾、よくわかります。中町にいても台湾から来るお客様がいらっしゃって、特に台湾で黒石の映像が流れているというお話があり、うちの母に、「あなたに会いに来ました。あなた台湾で有名です。笑顔のおばさんということで」みたいな話があったようなので、それをヒントに「人に会うぬぐもりの町」というところを考えたものでした。

質問は、先ほどの答弁の中でクルーズ船のお話がありましたけれども、クルーズ船以外にも今後公共交通機関を使用して黒石市を訪れる外国人がふえるということは予想されると思うんですけども、それに対して何か対策はありますでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 今年度のインバウンド対策の一環で取り組んでいる周遊ガイド作成のためのワークショップでは、外国人観光客が主に県内に降り立つ青森空港、あるいは新青森駅、JR弘前駅方面から黒石市を訪れやすくするための外国人向けの広域的なガイドマップを作成することとしております。この周遊ガイドは、当市のみならず、当市に来るまでの近隣自治体の観光情報も盛り込みまして、外国人観光客に人気の酒蔵や料亭などを含むコースを提案することで、これまで立ち寄りで終わってしまいがちだった当市での観光を、滞在時間を延ばしていくことを狙いとしております。

また、当市、平川市、田舎館村の3自治体で構成する津軽南地域観光推進協議会では、今年度、JR弘前駅の改札付近から弘南鉄道弘前駅へ向かう通路部分に、英語表記を含めた3自治体の紹介と弘南鉄道方向へ案内表示を設置することを計画しております。このことによりまして、外国人観光客が公共交通機関として弘南鉄道を利用しやすくなるような環境づくりにも取り組んでまいります。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。ポスターですとかPRの件でわかる範囲でお聞きしたいんですけども、去年は弘前公園のさくらまつりが観桜会100年だったこともあるのかもわかりませんが、県外に行くと結構遠いところでも、例えば横手ですとか山形もあったかな、ポスターを見かけることができました。

夏に、アスパムで受付をやっている方が黒石よされにお見えになったときにお話しさせていただきました。アスパムでは県内のいろんなパンフレット等を用意して、聞かれたときに対応

しているそうなんですけれども、黒石よされのパンフレットはあったんだけど、黒石ねぶたを聞かれたときに、受付の方も黒石ねぶたに関しての知識が全くなくて、ちょっと困ったということがあったそうです。例えばいろんな施設とかがありますけれども、そこに置かれているパンフレット等は、黒石でお持ちになっているのか、それとも何か違う方法があるのか、どうすればあちこちに置かれるようになるのかお聞きします。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） パンフレットやポスターにつきましては、市から関係機関やつながりのあるところに直接お持ちしまして、なくなった場合は補充したりしています。今回アスパムで黒石ねぶたのものがなかったということですが、アスパムも国際化を図るということでリニューアルしまして、観光PRに努めていますので、市としましても市を代表する祭りですので、これからパンフレット等を置いていただくように働きかけてまいりたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） よろしくお願いいたします。先ほどの答弁の中で、JR弘前駅の観光PRですとか、大型クルーズ船の外国人と接触ができるようになったというお話がありましたけれども、それについて、もう既に成果があったら教えていただきたいと思います。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） まず、大型クルーズ船の出迎えというかPRですけども、10月4日、黒石観光協会の協力もいただきまして、青森港でブースを設置しまして、外国人クルーズ船、これは乗客定員が2,376人、乗組員数が1,100人規模の客船ですが、こちらのほうの乗客に対しまして黒石のPRをすることとしております。具体的には、こけし灯籠を設置しまして、黒石観光協会のイアンさんに三味線の演奏をしていただくと。外国人が興味を抱く黒石の観光資源のリサーチや観光案内もしていきたいと考えております。あと、弘南鉄道の設置につきましては、これから実際に設置に向かっていくことになっております。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） 先ほどの答弁の中に、市民に対して共通の認識にしていくというお話があったと思います。あと、広く呼び込みをしていくということがありましたけれども、それについての具体的な施策というのがあったら教えてください。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） これから市の観光について、できればクイズ形式みたいな形で、皆さんに知っていただけるような仕組みを考えていきたいと思っております。それを新たな取り組みとして、今後考えていきたいと思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。とてもいいと思います。というのは、地元の方、ずっといらっしゃる方だと、どれだけ黒石の資源がほかに比べて優れているのかとか、いいものなのかというところがわからない方が多いようなんです。特に、町で会話しているのを聞いたりしても、観光バスが来ていたり観光客が来ていたりするんですけど、「何いくて何見に来てらんだがわがね」という声が上がったりすることがあります。クイズ形式でやることによって、改めて市民の方が黒石のよさを再発見して、ほかに自信を持ってPRできるんだという感じで、個人個人が観光大使のようにになっていただけると、本当に掛け算式にふえていくんじゃないかと思われますので、よろしく願いいたします。頑張ってください。

続きまして、農業の再質問に移らせていただきます。御答弁ありがとうございました。改めて、黒石の農業戸数についてもお聞きしたいです。あと、平均年齢がわかれば教えてください。

◎議長（北山一衛） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 黒石市の農家数、経営体数、そして平均年齢ということでございます。

国では、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計データを作成し、農林業センサスとして5年ごとに公表しております。直近の公表では、平成27年2月1日現在の状況として、当市の農業経営体数は1,364経営体、平均年齢は56.5歳となり、県内の市町村別ランキングでは、農業経営体数が県内40市町村中9位、平均年齢では40市町村中2位の若さとなっております。また、5年前の平成22年2月1日現在の公表においては、農業経営体数が1,548経営体、平均年齢は55歳であるということから、5年前の前回調査より経営体数が184減少し、平均年齢は1.5歳高まっているという結果でございます。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。平成22年のときの1,548経営体に対して、または55歳に対しての、県内の順位というものはわかりますでしょうか。

◎議長（北山一衛） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 5年前のランキングについては、大変申しわけございません、数値としては確認していません。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。1,364経営体の9位というのは多い順でよろしかったですか。

◎議長（北山一衛） 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任（高谷倉英） 1,364経営体が県内市町村ランキングでは9

位というのは、高いか低いかという…。

(「多い順」と呼ぶ者あり)

◎農林部長農業委員会事務局長併任(高谷倉英) 多い順。県内市町村の順位ですか。今、資料を持ち合わせておりません。以上です。

◎議長(北山一衛) 3番高橋美紀子議員。

◎3番(高橋美紀子) 先ほどの答弁の中で、ワーキングホリデーとか女性の農業者の取り組み、次世代を担う女性農業者パワーアップ事業がありましたけれども、ワーキングホリデーは何年目かになると思うんですけども、それによって、こちらのほうに移住するような気持ちになるような方がいらっしゃるとか、就農に向けて取り組みたいという方がいらっしゃったりとか、女性のほうに関しては何か新しいものが生まれたりとか、何か成果みたいなものがあつたら教えてください。

◎議長(北山一衛) 農林部長。

◎農林部長農業委員会事務局長併任(高谷倉英) まず、ワーキングホリデーの関係ですけれども、将来的には移住ということを当市では期待して実施しております。ただ、直ちに移住ということではないようであります。特にワーキングホリデーについては学生さんが主体でありますので、将来的にどうなるかは今のところはわかりませんが、定住を期待しての事業ということですので、現時点では定住までは、参加した方の決意というのは確認されていません。

そして、次世代を担う女性農業者パワーアップ事業です。比較的若い、平均年齢でいきますと35歳前後の若い女性の方で先般組織させていただいたんですけども、農業従事者に占める女性の割合も半数以上ということもありますので、女性の活躍も、もちろん当市の農業の発展には必要なのだろうということで先般組織し、現在活動しているということでもあります。以上です。

◎議長(北山一衛) 3番高橋美紀子議員。

◎3番(高橋美紀子) それこそ都会の若い女性が農業に興味を持っているというのはあちこちから聞く話で、地元の女性グループとの交流みたいなものもあると、より現実的になるような気がするので、そういうような企画もあつたら進めていただきたいと思います。これは提言です。

以前、広島に行った際に、それを何というのか言葉をちょっと忘れてしまったんですが、50坪の畑つきのちょっとした小屋といいますか、宿泊が簡単にできるような建物を13戸用意して、それを月5万円で貸し出しをしています。それは5年くらいになるらしいんですけど、1度借りられた方がそのまま継続して借りていて、それは都会のほうから週末に来たりするわけで、いない間の管理を近くの方の方にさせていただいて、すごくコミュニケーションがよくとれていて、いずれは移住したいというような声が出ているという話を聞きました。そういった

取り組みも効果的なんじゃないかなと思いましたが、今ここで披露させていただきました。
どこかに置いておいてくださいということで、これは提言で終わります。

続きまして、当市の行財政改革についてに移ります。昨年庁舎が分散しましたが、市民の方、または職員の方の不便さは当然あると思うんですが、不便さを解消するような得策はあるんでしょうか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 庁舎分散に関する御質問にお答えいたします。

昨年実施いたしました庁舎分散でございますが、市民の皆様から不便であるとの御指摘をいただいております。また、この庁舎分散につきましては、市民と職員の安全を最優先に考えて講じた措置でありますので、何とぞ御理解を賜りたくお願い申し上げます。

庁舎分散対策の一環として、これまで境松庁舎の敷地内にぷらっと号のバス停を設置するなど不便の解消に取り組んでまいりましたが、今後も必要な対策を講じてまいります。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。わかりました。

日常業務におけるコスト意識についての再質問なんですけれども、例えば若い職員の方や一般職員の方が、市民の方と接していてひらめきがあったりとか、日々の業務中で気づいたことがあったりとかという改革的なものなんですけど、そういったものを声に出したりして、それを採用してもらうような取り組みといいますか、機関といいますか、そういうものがあるのかどうか教えてください。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 議員御指摘の気づきなどの提案につきましては、職員提案制度というのが当市にはございます。この提案制度につきましては、市職員による行政事務の改善、市の施策に関する提案を奨励いたしまして、職員の行政運営への積極的な参加意欲を高めるとともに、事務効率の向上と市政の進展を図ることを目的に、昭和61年から実施してございます。

この提案制度の内容、採用事例などを御紹介させていただきますと、平成29年度には、各課での朝礼の実施、来庁者等への挨拶の励行が採用され、今年度につきましては、業務の効率化を図るための庁舎グループウェアV a i S T A F Fの積極的な活用によるスケジュールの見える化が採用されてございます。現在、全庁的にそれに取り組んでいるところでございます。

この職員提案制度につきましては、職員個人あるいはグループ、また、匿名での応募も可能となっております。今後も職員からの積極的な行政事務の改善等に関する提案がなされるように、制度の運用方法も含めまして、改善に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

います。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） ありがとうございます。来庁者等への挨拶とありますけれども、職員間の挨拶というのは盛んに行われているものでしょうか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 市民の皆様への挨拶はもちろんでございますが、職員間の挨拶ということで、先ほども答弁いたしました。朝礼等の励行を、各課、週1回、毎日とそれぞれ頻度は異なりますが、そのタイミングを利用しての挨拶の励行を奨励してございます。ということで、わずかではございますが改善されたものと私個人的な見解としてございます。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） 挨拶というのはとても大事なことだと思うんですね。あとは、おはようとかだけの挨拶でなくて、普段やっていただいたことに対してのありがとうだったりとか、何か普通のことじゃないのと思われるかもわかりませんが、普通のことなかなかできないのが大人だったりするので、特に職員間、庁舎の中ではいろんな難しいお仕事をされている方も多いと思いますので、明るく笑顔で、喜んで仕事をしているようなことが、ちょっとずつでも広がっていくことで、庁舎内がとても明るくなるんじゃないかと。それは来庁者の方も多分感じるところだと思うので、その辺はまたいろんなひらめきとかアイデアも生まれると思いますので、よろしく願いいたします。

鉛筆1本、封筒1つも無駄にしないようにというような、先ほど私の質問の中にもありましたけれども、実際のコストを削減したり、同じようなものを購入したりすると思うんですけど、だぶって多く買い込んだりというようなことがないような取り組みと申しますか、仕組みいいですか、そういうこともあるんでしょうか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） コストの削減に向けてのさまざまな取り組みは、これまで市役所の中でも実施してまいりました。ただいまの御質問は、重複して同じようなものをということで無駄が生じているのではないか、その対策はどのようなことをしているのかということでございました。実はその件について、若手職員が民間企業を視察・研修した際に、民間企業ではそのようなことが行われていたという報告を受けておまして、若手職員の中ではそういう工夫が大事であるという認識が、担当である職員系のほうに示されております。今後、コストの削減、無駄をなくすための取り組みということについて、職員間の中で話し合い、検討してまいりたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 3番高橋美紀子議員。

◎3番（高橋美紀子） 私も市民の方からよく言われたりすることもありますので、今回の答弁をお聞きしまして、そういうふうな取り組みをして、一生懸命頑張っているということをお伝えしたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 以上で、3番高橋美紀子議員の一般質問を終わります。

◎議長（北山一衛） 昼食のため、暫時休憩いたします。

午前11時59分 休 憩

午後 1時02分 開 議

◎議長（北山一衛） 休憩前に引き続き会議を開きます。

13番工藤俊広議員の登壇を求めます。13番工藤俊広議員。

登 壇

◎13番（工藤俊広） 皆さんこんにちは、自民・公明クラブの工藤俊広でございます。平成30年第3回定例会での一般質問をさせていただきます。

最近の災害は、非常に激しく大規模化しています。6月18日の大阪北部を震源として発生した大阪北部地震、6月から7月にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録が更新された7月集中豪雨、台風だけでも12号、20号、21号と全国各地に甚大な被害をもたらしています。さらに、9月6日北海道で発生し最大震度7を記録した北海道胆振東部地震と、多くの方たちが地震による土砂崩れの中で犠牲になりました。被災された皆さんに心からお見舞いを申し上げます。また、お亡くなりになられた方に御冥福と心からお悔やみを申し上げる次第であります。

私は、9日の深夜のフェリーで北海道厚真町と安平町に向かいました。地元の公明党議員からの要請で、とにかく食料が何もないとのことで支援の要請がありました。余震が続く中、できる限りの支援物資を積み込み、4名の同僚議員とともに行ってまいりました。最大震度7という厚真町に近づくとつれ、自衛隊車両や救援物資を運ぶトラックが目につくようになり、電線を復旧させるための作業員の皆さんが至るところで懸命に作業を行っていました。道路はゆがみ、建物は崩れ落ち、町の役場では炊き出しと報道陣でごった返し、職員は不眠不休で対応に当たっていました。

東北の大震災から7年と6カ月の時が過ぎましたが、現場を見ると3.11のあの日を思い出してしまいました。改めて災害の恐ろしさと備えをしっかりとすべきだと痛感させられました。そういう思いで質問をさせていただきます。

初めに、災害対策についてであります。9月4日の深夜に最大瞬間風速22.2メートルを観測

した台風21号は、当市にも被害をもたらしました。5日の早朝から、りんご園では落下したりりんごを拾う農家の皆さんの姿がありました。手塩にかけて育ててきたりんごが一夜にして落とされ、悔しい思いをされたことと思います。今回の台風21号で、報道では弘前の園地で半分のりんごが落下した園地もあるとのことですが、当市の台風21号による全ての被害状況をお知らせください。また、事前の注意喚起や避難所の開設などの対応は、どのような対応がとられたのかお聞きいたします。さらに、りんご園など農林被害に対する取り組みがあるのかどうかお聞きいたします。

次に、自主防災組織の活動状況についてお聞きいたします。災害が大規模化することで自主防災組織の重要性が増しています。地域による日ごろの避難訓練や役割分担など、地域力が問われるのも災害であります。そこで、今回の台風における避難所での自主防災組織の活動状況をお知らせいただきたいと思います。

次に、通学路の総点検についてお聞きいたします。大阪北部の地震で小学校4年生の児童が、プールのブロック塀の下敷きになり死亡した事故は記憶に新しいところであります。今回の事故を受け、国や県から通学路の一斉点検を行うよう求められています。当市の調査状況はどのような手順で行われて、現在どのような状況なのかお聞きいたします。

次に、個別計画についてお聞きいたします。災害時にみずからの力で避難所に駆け込めない高齢者や障害者の皆さんの避難計画が個別計画です。災害弱者である一人暮らしの高齢者や障害者の皆さんを、誰が、誰を避難させるのかといった具体的な計画が必要であります。災害時には非常に混乱した状況になり、とっさのときの行動は限られたものになってしまい、救える命も救えなかったという事態にもなりかねません。個別計画があることで、より具体的な対応が図られるものと思います。そこで、当市の個別計画の状況をお聞かせください。

続きまして、観光行政についてお聞きいたします。8月27日から3日間、インバウンドの先進地である飛騨高山を研修・視察をしてまいりました。高山市の人口は8万8,566人で高齢化率が31.9%で、黒石市よりも高齢化が進んでいる町です。しかしながら、観光客の入込数は、年間で462万3,000人、うち外国人旅行客の宿泊者数が51万3,000人、観光消費額が940億円、経済波及効果は1,994億円と観光の先進地であります。国も平成20年には観光庁を新設し、平成28年には訪日外国人旅行客が2,400万人を超え、東京オリンピックの2020年には4,000万人とする目標が示されております。このような状況の中で、青森県におけるインバウンドの伸び率が全国1位との報道がなされました。外国人観光客に対する期待が各業界から寄せられています。そこで、青森県と当市における外国人観光客の入込数を、国別で分かりましたらお知らせいただきたいと思います。また、外国人観光客が黒石のどこを訪れ、どのような目的を持って訪れているのか、データ分析はあるのかどうかお聞きいたします。

次に、インバウンドの今後の取り組みについてお聞きいたします。当市も近年インバウンド対応の勉強会を行っていますが、一、二年で結果の出るものではありません。国や県の取り組み状況を踏まえたときに、さらなる取り組みの拡大が求められていると思いますが、インバウンドの重要性をどのように捉えているのかお聞きいたします。またフリーWi-Fiや外国語表記もふえてきていますが、外国語表記を、さらなる多言語化を求める声もあります。今後、どのような取り組みに重点を置いていくのか、また、予定されている取り組みがありましたらお聞かせいただきたいと思います。

次に、黒石よされの充実についてお聞きいたします。黒石の祭りらしさの象徴である黒石よされ流し踊りは、年々参加団体が減少し、2日間の参加を1日だけとするところがふえてきています。また、各団体との間の距離が大きく開いてしまい、沿道のお客さんからは、これで終わりなの、といった声が寄せられています。そこで、参加団体の増加は人口減少の中にあっては現実的に厳しいものがあると思います。しかし、このままでもいいとは思いません。何らかの対応が必要と思いますがいかがでしょうか。

最後に黒石検定の実施についてお聞きいたします。先日、会派の研修で山口県萩市を訪れました。吉田松陰先生ゆかりの歴史や文化が深く根ざしている町です。その歴史と文化を継承していくための取り組みとして、萩市の検定が行われていました。全小学校で受験がなされており、受験者全員が合格者となります。一般の受験は段階が分かれており、達人的な資格を持つ人は観光ボランティアとして働くことができます。黒石市も、子供から大人まで黒石市の歴史や文化を深く知ること、より黒石市を語れる人材がふえるものと思います。萩市では、初年度に行政がかかわって検定テキストを作成し、検定が行われましたが、次年度からは検定テキストの販売により収益を上げて、観光協会が実施しています。当市でも取り組みが可能なのではないかと思いますし、次世代への黒石力アップにもつながる取り組みであると思います。黒石検定の実施についての御答弁をお願いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 工藤俊広議員にお答えいたします。私からは、災害対策についての自主避難所開設に伴う自主防災組織の活動について答弁させていただきます。

自主避難所は、六郷・浅瀬石・中部・山形の4公民館で開設、さらに北地区では自主的に中郷公民館を避難所として開設いたしました。

避難所を開設した各公民館に対し、自主防災組織の活動について伺ったところ、六郷地区で

は民生委員などが高齢者に対し避難所について周知活動を展開、浅瀬石地区では役員が町内会を通じて避難所の開設を周知、民生委員やほのぼの協力員などによる一人暮らし高齢者の安否確認、消防団員がポンプ車による避難所開設の広報活動を実施いたしました。北地区では、各町内会長が民生委員を通じて一人暮らしの高齢者の安否確認を行い、開設した避難所に4人の自主避難者を受け入れました。また、上十川地区でも一人暮らし高齢者の安否確認を行っております。このことは、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」といった、市民の皆様の高い防災意識とともに共助への取り組みが積極的に実践されたものと実感しております。

市としましても、自主防災組織の設立に取り組んでいる牡丹平地区と西部地区の各協議会に対しまして、引き続き設立へ向けた御理解と御協力をお願いしてまいります。また、各地区に防災士を養成するための取り組みを検討してまいります。

市民の皆様による地区の特徴を生かした自主防災組織の活動強化が、黒石力の強化につながるものと確信いたしております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（北山一衛） 教育長。

◎教育長（山内孝行） 私からは、災害対策についての通学路の総点検についてお答えいたします。

通学路における危険箇所については、毎年各学校で点検確認を実施して作成したハザードマップに、国からのチェックリストを活用して確認作業を行い、安全に関する注意喚起をしております。さらに、児童と保護者等と一緒に各自の通学路を確認して危険箇所のマップを作成し、学校もその内容を確認するよう指示しています。

なお、国から、防犯及びブロック塀等を含めた防災の観点からの危険箇所の合同点検を9月末までに実施するよう依頼があり、学校及び関係機関からの情報提供をもとに点検箇所を抽出し、黒石市通学路安全推進会議を活用して、関係機関の協力のもと、昨日9月18日に通学路の合同点検を実施したところです。その結果、対策が必要と思われる箇所は13カ所でした。私からは以上でございます。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 私からは、災害対策の台風21号の被害状況についての御質問にお答えいたします。

台風21号は、9月4日から5日にかけて、非常に強い勢力で日本海を北上し本県を通過、当市では幸いにも人的被害がなかったものの、農林関係などに被害がありました。

当市の被害状況といたしましては、山形地区や浅瀬石地区などの一部で約440戸の停電が発生、市所有のビニールハウス3棟の損壊、山形地区などの市道で3件の倒木などがありました。9月5日には、いずれも復旧、あるいは処置済みとなっております。このほか学校関係では、黒石小学校で小屋側面のトタンの剥離など3件、牡丹平小学校の雨漏り1件などが報告されております。

また、農林関係の被害につきましては、りんごの被害面積が14.4ヘクタール、りんごの落下箱数が1万1,970箱、樹体損傷が倒伏72本、折損33本、被害率及び落下率が1.2%、ビニールハウスの被覆材の損傷が6件ありました。

事前の対応につきましては、9月3日午後2時45分から市庁舎において関係部課長会議を開催し、所管施設や小・中学校の対応、農作物対策、広報対策、自主避難者への対応、事業の開催判断、黒石消防署員や市職員等の対応・連絡体制の確認を行っております。

9月4日正午、台風が暴風域を保ちながら本県に接近するという気象情報を受けまして、黒石市災害警戒対策本部を設置し、市防災行政無線や広報車での放送、黒石消防署の協力を得て消防車両による広報、市ホームページへの掲載などにより、市内全域に注意喚起等を行っております。

自主避難所の事前活動につきましては、台風の通過が夜間となる気象情報を受けまして、9月4日正午に六郷・浅瀬石・中部・山形の4公民館に開設をし、毛布を用意するなど受け入れ態勢を整えました。避難者数は浅瀬石公民館が1人、中部公民館が7人となっており、翌日午前6時15分の時点で全員帰宅いたしました。

農業被害に対する今後の対応につきましては、台風21号で落下した組合員のりんごについては、品種を問わず津軽みらい農業協同組合が加工用として買収していただけると伺っております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 健康福祉部長。

◎健康福祉部長兼福祉事務所長（千葉毅） 私からは、災害対策の個別計画について、当市の状況についてお答えいたします。

災害時要援護者の個別計画は、平成21年9月に定めた黒石市災害時要援護者避難支援プランを全体計画とし、登録申請書兼登録台帳を個別計画と位置づけ、整備しています。

個別計画には、災害時要援護者自身の情報、緊急時の連絡先、かかりつけ医や居宅介護支援事業者、一時避難場所、地域支援者の記載があり、災害が起きたときに地域の民生委員・児童委員、市及び黒石消防署が避難誘導、安否確認等に活用できるように提供しております。新規登録及び内容の更新につきましては、民生委員・児童委員に協力をいただきながら、随時更新しております。

市といたしましては、今年度から黒石市総合防災訓練において個別計画を活用した福祉避難所開設及び移送の訓練を行い、大規模災害発生時に確実に機能していくよう検証し、避難支援体制の整備を図っていきたいと考えています。以上です。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 私からは観光行政について4点お答えいたします。

まず、外国人観光客の県と黒石市の国別入り込み状況と黒石市内の訪問場所、目的、食の好み等のデータ分析についてお答えいたします。

インバウンド観光入込客数は、黒石駅前観光案内所を訪問した人数では、平成29年は458人、前年と比較して約3倍、国別では、1位台湾123人、2位中国79人、3位香港56人です。市内宿泊施設の外国人宿泊者数は2,336人、前年と比較して約1.5倍となっており、こちらは国別の具体的人数は把握しておりませんが、宿泊施設からの聞き取りによりますと、韓国、中国、台湾が多いと伺っております。

次に、青森県全体での平成29年の外国人延べ宿泊者数は26万330人となっており、前年比約1.6倍、国別では1位台湾8万920人、2位中国6万4,430人、3位韓国3万510人となっております。

黒石市内への訪問目的については、黒石駅前観光案内所の対応記録によりますと、市内温泉施設宿泊や中野もみじ山、中町こみせ通りを訪問すること、黒石よされ・ねふた等の祭りとなっております。食の嗜好につきましては現在データをとっておりませんが、確実に増加しているインバウンド観光客への対応策を検討するためにも、市内事業者アンケートの実施等、情報収集に努めてまいります。

次に、インバウンドの今後の取り組みのインバウンド事業の重要性、さらなる多言語化、今後の予定されている取り組みについてお答えいたします。

インバウンド対応への取り組みは、国内需要が低迷する一方で、一人当たりの旅行消費額において日本人より外国人旅行者のほうが高いこと、外国人旅行者の増加が、ひいては観光客増加につながるという波及効果を生むことから、外国人旅行者の受け入れに取り組むことが当市にとっては重要なものと思っております。

外国語表記は青森県や当市における外国人観光客の国別訪問者数を踏まえ、現時点では英語、韓国語、中国語繁体・簡体の4種類のパンフレット等を作成しております。さらに言語の種類をふやすことにつきましては、今後の状況に応じて対応してまいりたいと考えておりますが、まずは、既存のパンフレットなどで外国語対応されていないものについて、先に述べた4言語に翻訳することから進めてまいりたいと考えております。

今後予定される取り組みについては、市では、外国人観光客の中でも長期滞在傾向にあり、

滞在中の消費額が大きく、日本文化を楽しむことに関心を持っているヨーロッパ・アメリカ・オーストラリアからの誘客、中でもオーストラリアにターゲットを絞った誘客を推進するため、今年度から一般財団法人自治体国際化協会に職員を派遣しております。午前中に高橋議員の質問でもお答えしましたが、来年度からは現地旅行会社や現地市民への情報発信、そして、当市への情報提供など連携を密にし、誘客を図ってまいりたいと考えております。

次に、黒石よされの充実についての、流し踊り団体の減少への対応策と流し踊りの団体間の切れ目の解消についてですが、流し踊り参加団体と人数減少を抑制するため、黒石よされ実行委員会では、過去に参加経験のある団体や市内事業所等に参加を依頼しております。今年度、陸上自衛隊が3年ぶりに参加し、流し踊り会場を活気あるものにしていただきました。雨天中止により、残念ながら踊りの披露に至らなかった団体もありましたが、初参加団体申し込みが3団体あるなど、新たな動きも見られております。

団体間の切れ目を解消させることにつきましては、参加団体に終了時刻まで踊っていただくよう依頼をし、流し踊り当日は隊列の変更や進行の調整を行っております。こうした取り組みの結果、昨年度まで午後8時までの参加としていた黒石高等学校で、今年度は浴衣で参加した一部の生徒が午後8時40分まで延長して踊りに参加していただける予定となっております。しかしながら解消には至っておらず、今後行われる反省会において引き続き議論してまいりたいと考えております。

次に、黒石検定の実施について、祭りや文化の継承に黒石検定を実施してはどうかということでございますが、黒石市の祭りや文化について楽しみながら、より親しみやすく知識を習得できる検定制度は有効な手段であり、市民には観光客に対するおもてなしの機運醸成、市外の方には観光PRといった効果も期待できる大変よい取り組みだと思っております。今後は、検定制度に係る情報収集に努めるとともに、試験的に簡単なクイズ形式のものとして実施することなど、教育委員会とも連携を図りながら、前向きに検討してまいります。以上です。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 再質問を許します。13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 御答弁ありがとうございました。順次、通告通りに再質問をしていきたいと思っております。

被害も、りんごが1万箱以上落ちたということと多少なりとも損害があったものに対しては、5日の時点でしっかりと対応ができているという答弁であったというように思います。事前の対応の部分で、注意喚起をするのに、3日の時点で庁舎内において部課長会議を開いて対応を取っていたということでもありますけれども、情報の中で、避難勧告だの避難指示だのという線

の引き方は、警報が出ていても避難勧告は出ていないとか、避難所の開設など、関連していくものに対して基準は設けているものですか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 災害対策につきましては、市長のほうから、空振りを恐れるなということで指示を受けております。今回の台風の場合、暴風域を伴っての北上が早い段階で予想され、その予想される進路が青森県にかかわるという段階のときから、各部・課では、被害等に対する対応を検討してまいりました。今回、避難所の開設につきましては、夜間の避難を避けるべきであろうという事前の打ち合わせの中で、ぎりぎりのタイミングといたしまして、5日10時の気象情報が一番参考になるであろうと、それが直近の情報になるであろうという判断をいたしております。そこで、昼間のうちに避難できる時間帯ということで、避難所の開設については12時をもってというような対応をさせていただいております。今後も気象庁が発する気象情報の中でも72時間とか24時間とかというような時間を限っての気象情報を注視しながら、県の防災担当から寄せられる情報など総合的に判断し、できるだけ早く決断し、市民の皆様の安全を第一に考えて、今後も情報の提供、避難に対する情報、避難の指示は行うべきであろうと考えております。今後もそれに注意して頑張っていきたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 私も同感であります。空振りであったとしても命には変えられないという視点を忘れないで、夜中に避難することは当然大変だし、前もって対応ができるものであればしていくべきだと思います。そして、何時間前にどうのこうのとかという基本的なマニュアル的なことというのは整備されているものですか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 具体的に何時間前というような一律の対応について用意はしてございません。その都度その都度、災害の性格というか様相というものが異なっていきたいと思います。予想される災害想定に基づいて、一番適切な形で対応できるよう、今後も務めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 毎回災害の形は違うわけでありまして。その都度都度というのは必要かと思っておりますけれども、基本的な部分というものは押さえておく必要があるのかなと思っておりますので、御検討いただければと思います。

次の、自主防災組織の活動状況のところ、市長から今後防災士を育成していきたいというお話がありました。大変私はありがたいなと思っております。自分も防災士の講習を受けまして防災士になって、その知識というのは非常に避難所等々の運営に、また災害に対する意識に大きく

役立ちます。だから、防災士をやっていくに当たっても、今、自主防災組織にしている5万円では足りないと思うんです。しっかりとその辺の裏づけの予算も措置していただければなと思いますけれども、その辺はいかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 御指摘のように防災士、自主防災組織の中では地区のリーダーになる人材かと思います。その必要性につきましては、市長の答弁でも申し上げたとおりでございます。今後、市といたしましては、各地区に防災士を養成できるような、必要な施策というのを検討してまいります。予算につきましても十分検討させていただきたいと思います。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） ありがとうございます。育成することによってまだ設置されていない地域にも弾みがついていくのではないかと思いますので、本当にこれは進めていただきたいと思います。

次の通学路の総点検についてでありますけれども、きのう時点でまとまりましたと。市内13カ所に改修・改善しなければいけない点が見つかったというお話であります。当然民家のブロック塀なんかも含まれていると思うんですけれども、内訳は公表できるものでしょうか。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 13カ所の内訳といたしましては、防犯上では、空き家とか点在して人通りが少ないところや不審者の事案があったところを含めての7カ所となっております。防災上では6カ所、うち、水路、ブロック等の危険箇所が4カ所、道路が狭いところが2カ所となっております。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 私の地域の中でも、通学路の中に入る、要はブロック塀は高さ制限があるんですけれども、そういったものを超えているブロック塀というのは結構あるように感じます。そういったところの取り組みというのは、安全だと市が判断したということで地権者が捉えてしまっても困ることだと思うんですよ。高さ制限、違法性があるんだというところの確認は、今回なされなかったんでしょうか。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） その辺については、学校に特に危険と思われる箇所を挙げていただきました。個人のブロック塀に関しましては、高さ制限があります。120センチメートルを超えた場合は控え壁が必要です。ただし、今の点検の中には件数として入っておりません。大坂で事故のあった次の日に、学校へは危険な高さのあるようなところは、離れる

ように、注意喚起をお願いしているところでありました。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 私の認識では控え壁、また、高さ制限、亀裂があるかどうかなど、点検項目についても県・国から指定がされているはずですが。今回は学校の敷地に限ったことではなくて、通学路に関してもやりなさいという指摘であります。それで、警察、学校、PTA、行政の関係者をもって構成した安全点検チームでやっていきたいと思いますという通達だと私は認識しておりますので。民間に対してどう対応するのかが、各市町村とかで問題になっております。そういうことを宮城県のみが行政でお金をつけてやっていくというふうな状況に今あるということですが。その部分で、今後、黒石市としても防災に関連してそういったものがないのかしっかりと点検して対応していくべきだと私は思っているわけでありましてけれども、その部分の認識がちょっと私とはずれているのかという感じで今お聞きしましたけれども、その辺どうでしょうか。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 私も認識はしております。ただ、学校からは特に今危険なところが上がってきたものです。確かに今回の点検の中には入っていたんですけども、その移動中に、ブロックの高さ等、18日に回ったときには点検していますので、後ほどまとめたものが提出されると思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） いろいろな対応が必要になることがあると思いますので対応をしっかりとって行って、子供たちの通学路、安全・安心を確保していただきたいということを申し述べさせていただきますと思います。

それでは、観光のほうにいきますけれども、黒石の入込数等々はお聞きしてわかりました。どこへどんな目的を持って来ているのかというところで、温泉、もみじ山、祭りという結果が今のところは出ていると。これから、関係する業者さんに聞き取りのアンケート等をとって、さらにそのデータを細分化して分析していきたいというお話でありました。これは、本当にこれからものを進めていくに当たって必要なデータになっていくものと思いますし、国も2020年に4,000万人という目標を掲げて進んでいるということで、確実に外国人の観光客はふえてくるという予測も立っておりますし、どういった対応をやっていけばいいのかというのは、勉強会等々で相当鍛えていただいたところでもあります。

今後の取り組みになるんですけども、異業種の皆さんが集っての勉強会が開催されて、参加している方たちも、結構意識も高まっていると思うわけでありまして。先ほど高橋美紀子議員の答弁の中で、自主性を持って進めていってほしいというお話がありましたけれども、確

かに自主性は持ってやっていくべきだと思います。飛騨高山では、平成12年に国際誘客協議会が設置されまして、平成28年にジャパン・ツーリズム・アワード大賞を受賞しています。これをちょっとまねしてみればいいんじゃないかなというふうに思っています。これは、異業種間の観光関係団体と行政と、お金も団体・個人たちが1、行政が2を出して、外国人誘客に向けたさまざまな取り組みをやっていくという団体の設立であります。こういった取り組みの中身の部分は、この一、二年、三年の間でさまざま細かいことを教えていただきましたけれども、具体的に外国人の誘客活動をしていくのに、クレアに今黒石が派遣していますけれども、それに協力するような形の団体がつくれればなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） まず観光につきましては、事業者だけではなかなか難しいところがあると思います。やはり、市、事業者、そして市民と一体となって観光に取り組んでいく必要があると思います。特に今回勉強会に参加していただいた皆さんには、先導的な役割をぜひ担っていただいて、組織づくりとか連携も含めて担っていただくようにしていただければ大変助かると思います。市としましても、これからいろいろな補助メニューとかこれからの研修とか講習会の情報提供とかどんどんしていきたいと思いますので、官民一体となって取り組んでいきたいと思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 全くそのとおりだと思います。先日もその打ち上げがありまして、参加している側から、こういうものをやったらいいねという声も出ていました。そういったものの手を引っ張ってあげて、行政が助言をしていただいて、あらゆるものの協力を惜しまないと思いますので、官民一体で進めていただければなと思います。

黒石よされのほうです。参加団体がふえているといいますけれども、2日間の参加が各地区協議会においてもきついと。2日も出るのなら本当に大変だという声が生のところでありまして、1日だけに限定してきているということで、2日に振り分けるとどうしても団体数が足りないと。そこで、空間ができてしまうというのが私の認識ですけどもいかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 会期日程につきましては、黒石よされ実行委員会の中でも議論しているものです。流し踊りは、黒石全体の中で観光客も参加しやすい主なイベントとなっているため、2日間実施しているということになっております。今回も雨で1日中止となりましたが、2日あったので1日は皆さんに喜んでいただけたと思いますが、今の団体数の減少や団体間の切れ間のこともありまして、今後も会期日程も含めて議論をして、どの方向が伝統を守りながら観光にも結びつけていけるのか協議してまいりたいと考えます。以上で

す。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 非常に多様な意見があります。黒石よされに関して。観光でやるのをやめて、自分たちが楽しまなければならないという考え方もありますし、もっともっと見せていくために、みんなが浴衣を着てしっかりそろわなければならないんだとかという考えもあります。ただ、どうしても人口減少は避けて通れないわけでありまして、高齢化も進んでいきます。必然的に人間が少なくなります。その分を県外から連れてきて、それを維持できるのかということも、相当厳しいところがあるというのが現実かと思えます。そこで、いろいろと意見交換しながら話をしたりするんですけども、流し踊りは1日で終わればいいと。もう1日は公園で廻り踊りやればいいと。昔のようにそうやって廻ってみんな踊って、いつでも好きなときに来て、いつでも帰れるというスタイルを復活してほしいなという声があるんですけども、会議の中でいろいろお話が出るかと思えます。そういった部分、部長さんどういふふうな認識を持ちますか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 今、議員さんもおっしゃったとおり、いろいろな意見があります。観光、伝統文化を守るべきだ、いろいろなものがあって、これまでもねぶたも含めて試行錯誤をしてきたわけです。今回もいろいろな問題点もありますし、皆さんの意見を聞いて一つにまとめるというのはなかなか難しいことではありますけれども、よりよい方向になるように、皆さんの意見を聞いて、一つの方向を目指して、みんなで取り組んでいきたいと思えます。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） わかりました。その面で大きい役割を果たしているのが観光協会のよされ実行委員会の皆さんたちだと思うんですが、限られた人員の中で本当に必死でやっていただいているというのは伝わってきておりますし、大変だなとも思えます。

外国に対しての情報発信の部分で、観光協会のホームページというのも非常に重要だなと思うんですけども、その中身の充実をさせていくのに、それも観光協会の中の人間がやっていると。それもスーパーな人間ではなくて、普通の方がそういった作業をやっているという現状もあるということで、行政でお手伝いができることがあるのであれば、観光協会に対しての取り組みを少しでも力を貸してあげればいいのかというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 観光協会さんにおかれましては、外国人の方も雇

用されたということで、これからインバウンドに向けてもかなり強力な力となると思っています。市としましても、観光協会、商工会議所、いろいろな団体とタッグを組んで、協力しながらやっていかないと進んでいけない事業ですので、そこら辺は調整を図りながら協力してやっていきたいと思っています。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 本当にイアンさんの活躍はすごいと思います。クルーズ船が着きましたと。外国の方が下りてきて、その中で黒石の顔として三味線を弾いていると。引きつけるものはばっちりだと思いますので、大いに協力をいただいて、こちらも協力していくよう、よろしくお願ひしたいと思います。

最後に黒石検定の実施についてでありますけれども、前向きなお話と捉えました。まずは、クイズ形式という打ち出しでありましたけれども、ちゃんとした黒石を知るためのものというのが、実は非常に少ないと思っております、学芸員の方が語れる、こみせに関してはこみせボランティアの方が語れる、まちあるきについては横町十文字会の方が語れるという、既存のそういうことをやってくださっている方をチームとして、最初はクイズ形式でもいいんですが、しっかりしたものをたたき上げてつくっていただきたいと思うわけですが、いかがでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） この件につきましては、最初から堅苦しくするととっつきづらいところもありますので、まず、クイズ形式にして写真とか画像も入れながら、とっつきやすい形にしまして、それからだんだんレベルアップしていきたいと思っています。その中で専門的なものを知りたい方は、ボランティアガイドさんの力を借りたり、教育委員会の力を借りたりして、専門的な部分については後々レベルアップしていきたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） 先ほど言った、萩市では小学校で萩市の検定をやっていると。これは全校児童を対象にして、合否をつけないで、全ての方を合格にするという。それで自分の身近な市の伝統文化を学んでいくということをやっているということですが、黒石の小学校では、黒石市を知るための勉強を、何か特化してやっているものはあたりするものでしょうか。

◎議長（北山一衛） 商工観光部長。

◎商工観光部長商工課長事務取扱（真土亨） 以前、教育委員会で答弁していた中では、黒石の歴史とか人物とかを授業の中で取り入れているということでしたので、今後も引き続き継続していただきたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 13番工藤俊広議員。

◎13番（工藤俊広） わかりました。ぜひともそういったものをバージョンアップしていただいて、黒石の市内の小学校、これから4校になるわけですが、全ての学校で黒石検定の実施をぜひとも行っている体制にさせていただきたいということ、最後に希望を申し上げまして、私の質問とさせていただきます。ありがとうございました。

◎議長（北山一衛） 以上で、13番工藤俊広議員の一般質問を終わります。

◎議長（北山一衛） 次に、10番大溝雅昭議員の登壇を求めます。10番大溝雅昭議員。

登壇

◎10番（大溝雅昭） 皆さんこんにちは。本日4番目ということで皆さんも疲れてきていますけれども、もう少しよろしく願いいたします。自民・公明クラブの大溝雅昭です。平成30年第3回定例会におきまして一般質問をさせていただきます。

まずは、去る9月6日午前3時7分、北海道胆振東部地震が発生いたしました。地震の規模はマグニチュード6.7、震源の深さは37キロメートルと発表され、最大震度は当初震度6強と発表されましたが、その後、厚真町鹿沼で震度7を観測していたことが判明しました。被害状況は、死者41人、負傷者681人うち重傷9人、軽傷646人、程度不明26人、住宅等の全壊は82棟、半壊97棟、一部破損380棟、被害程度確認中が566棟。震源に近い厚真町吉野地区の山林では大規模な崖崩れが広範囲で発生し、多数の住宅が巻き込まれました。山肌が広範囲に削られているあの光景には、私も驚きました。北海道全体が停電に見舞われ、断水などの影響は今も続いています。

学校関係では高校生が1人亡くなり、小・中・高校218校の公立学校に物的な損害がありました。きのうの報道ではほとんどの学校での授業が始まったというニュースが流れましたが、今でも避難所になっている学校が残っています。亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、7月27日に第13回の黒石市議会報告会を開催いたしました。参加者47名、男性35名、女性12名でしたが、25名の黒石高校、黒石商業高校の高校生が参加しました。高校生が政治に興味を持つことは、とても重要なことだと思います。その報告会の中で質問があったことを幾つか取り上げながら質問をいたします。

1番目は、一人暮らし世帯等の問題についてであります。

アの合葬墓について。

議会報告会で合葬墓についての質問がありました。秋田市、弘前市で既に取り組まれているとの報道があります。まずは、それはどのようなものなのか、市として捉えている情報をお知

らせてください。

イの遺品の整理・活用について。

これは市民から相談されたことですが、父親が亡くなり、高齢の娘が一人暮らしをしています。父親や父親の兄弟の遺品があり、昔の写真や戦争の資料などがある。一人暮らしなので全部捨てるしかないと思うが、貴重なものなら役立てることはできないか聞かれました。先祖代々の遺品の中で、戦争時や黒石市の歴史的に貴重な資料や写真が眠っている場合があります。市としてもそれらに対応できないのか質問いたします。

2番目は、人口減少対策についてであります。

アの出生数と支援について。

少子高齢化が進み出生率が低下しています。また、黒石病院で出産ができなくなって大分あります。黒石市の出生数の実際のデータはどうなっているのか、最近5年間の出生数の推移をお知らせください。

イの流入支援策について。

若い人が黒石市から出て、平川市に家を建てたという話を最近よく聞くようになりました。私は、黒石市は歴史と文化のレベルが高いすてきな町だと思っていますが、子育て世代の人たちはそうは思っていないのでしょうか。子育て世代の流出はあるのか、国勢調査による、平成27年の30から39歳と5年前の25から34歳についてのデータをお示してください。

ウの首都圏からの移住の課題について。

議会報告会で首都圏から黒石市への移住についての具体的な質問がありました。今まで首都圏で仕事をしていてこちらに移住してきたときに、給料の差は当然あるわけです。しかしそれより問題なのが、給料が下がった後に昨年の高い給料の税金を払わなければならないというダブルパンチがやってくるんですよという話でした。この状況が何とかならないものかと意見がありました。そういったケースも実際あると思いました。市としての対応、考えはあるのかを質問いたします。

3番目は、こみせ通りを生かしたまちづくりについてであります。

8月20日から22日まで自民・公明クラブで山口県と佐賀県に行政視察に行っていました。21日は山口県萩市で、「萩まちじゅう博物館」について研修をいたしました。それを踏まえながらの質問であります。

アのこみせの保存、再生について。

萩市には市内に4カ所の重要伝統的建造物群保存地区があります。歴史・文化がよく保存されています。黒石市は、平成17年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、こみせを生かしたまちづくりに取り組んでまいりました。しかし、こみせそのものの再生がほとんど進んでい

ないと思います。状況と対策について質問いたします。

イの景観行政について。

行政視察した萩市では、景観へのこだわりがすごいということを感じました。町なかの建物は全て3階まで。企業の建物や看板の色も景観を配慮しています。例えば、ユニクロの看板が赤くないんです。宝くじ売り場の看板も赤くないんです。対応が半端ないなど感じました。黒石市の景観行政はどのような取り組みが行われているのか質問いたします。

ウの歴史・文化の検定についてであります。

先ほどの工藤俊広議員の質問と重複するとのこともありますが、工藤俊広議員は観光という面で、私は歴史・文化という面での質問ということで、考え方の違いがあるのかなというふうに思います。萩市では、「萩ものしり博士検定」、「萩・幕末維新検定」などの取り組みを行っていました。当市では歴史・文化に関する検定等についてどのように考えているのか質問いたします。

4番目は、第2回黒石市民運動会についてであります。

アの内容について。

8月26日に第2回黒石市民運動会が行われました。雨が予想されたため、スポカルイン黒石で行われました。まずは、内容はどうだったのか質問いたします。

イの課題についてであります。第2回黒石市民運動会について、各地区から課題や要望についての意見は出ていないのか質問いたします。

実りの秋を迎えましたが、黒石市でも台風21号の影響がありました。ことしの台風は数・進路ともに、例年と明らかに違います。台風だけではなく地震・豪雨など災害が非常に多い年です。黒石市にさらなる災害がないことをお祈りいたしまして、壇上よりの質問を終わります。

(拍手)

降壇

◎議長（北山一衛） 理事者の答弁を求めます。市長。

登壇

◎市長（高樋憲） 大溝雅昭議員にお答えいたします。私からは、人口減少対策についての出生数と支援について答弁させていただきます。

市内の出生数の直近5年間の推移は、住民基本台帳に登録された出生数によりますと、平成25年度が248人、平成26年度が209人、平成27年度が219人、平成28年度が189人、平成29年度が176人となっております。

次に、出生数減少への対策としては、子供を産み育てやすい環境の整備を図るため、黒石市子育て世代包括支援センターを平成27年10月に設置し、妊産婦などが抱える妊娠・出産や子育てに関する悩みなどについて、助産師など専門家による相談支援を行っているほか、家庭や地

域での妊産婦の孤立化の解消を図る産前・産後サポート事業、産後ケア事業などを実施いたしております。また、医療保険が適用されず、高額な医療費がかかる特定不妊治療の経済的負担を軽減する黒石市特定不妊治療費助成事業、ハイリスク妊産婦等に対する交通費等の助成を行うハイリスク妊産婦交通費助成事業などを実施いたしております。

出生数の減少による少子化対策は、当市のみならず全国的に直面している喫緊の課題であり、全庁を挙げて横断的かつ戦略的に、あらゆる分野において施策を実施してまいりたいと考えております。

その他につきましては、担当部長より答弁をさせます。

降 壇

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 私からは、一人暮らし世帯等の問題についての、合葬墓についての御質問にお答えしたいと思います。

初めに、合葬墓について御説明をさせていただきます。

合葬墓は、従来の家族単位のお墓とは異なり、血縁や婚姻関係にかかわらず、一つの墓所に多くの方の遺骨を一緒に埋葬し、広く共同で利用するお墓のことです。合葬墓を利用する方には、自分の代でお墓を所有しても跡継ぎとなる家族がいない方や既に遺骨を保有しているものの経済的な理由からお墓を求めることができない方など、切実な思いをお持ちの方を初め、残された家族に負担をかけたくない方や無縁墓になってしまう前に自分の代で墓じまいをしたい方など、昨今認知されてきております人生の終えんを考えることを通じて自分を見つめ、今をよりよく自分らしく生きる活動、いわゆる終活の一環としても利用されているようでございます。

次に、秋田市の取り組み状況でございますが、本年4月に遺骨1,500体を埋葬できる合葬墓を整備してありまして、永代使用料は一体につき1万7,000円とし、以後の管理手数料等の費用負担はありません。ことし4月と5月に利用希望者を募集いたしましたところ大きな反響があり、収骨可能数を大きく超える申し込みがあったため、即日完売となったとのことございます。そのうち、約1割が既に埋葬を終え、残りの大多数が生前予約であるとのことございました。

次に、弘前市の取り組み状況です。ことし8月に遺骨3,000体を埋葬できる合葬墓を整備しており、永代使用料は一体につき6万円とし、以後の管理手数料等費用負担はありません。利用希望者の募集につきましては、50年間で3,000体を計画的に募集していくことにしておりまして、既に焼骨、いわゆる焼いたお骨のことです。焼骨を保有している方を優先して、生前申し込みについては、他の焼骨の埋葬状況を見ながら募集等調整していくということ

だそうであります。

なお、合葬墓のお盆・彼岸供養などの宗教行事は、両市ともに実施しない旨、利用者に御理解をいただいているとのことでございます。

次に、戦争時とか市の歴史的に貴重な資料などの取り扱いという御質問にお答えします。市として活用できないかという御質問でございますが、御相談を受けることは可能であろうと考えております。活用につきましては、それぞれの物品によってさまざまな方法を検討する必要があると考えております。以上でございます。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（阿保正一） 私からは、人口減少対策のうち流入支援策と移住の課題について答弁させていただきます。

まず、若い人が黒石から転出しているデータはあるかということで、国勢調査時の数値により確認いたしました。国勢調査の数値により当市の若い世代の人口増減を確認したところ、平成22年国勢調査時点で、25歳から34歳までの人口は3,888人でありました。これらの方々が5年後の平成27年国勢調査時点では30歳から39歳になっておるわけですが、人口は3,841人であることから、単純に比較しますと47人減少していることとなります。

次に、移住の課題として、首都圏などから移住し給料が下がった場合でも、昨年中の給料に対して市民税が課税されることに対しての市の対応、考えはあるかという御質問でございますが、地方税法により、市町村内に住所を有する個人は、均等割額及び所得割額の合算額によって道府県民税及び市町村民税が課税されることとされております。そのうち所得割については、課税を伴う年度の初日、黒石市の場合1月1日でございますが、初日の属する前年の所得について算定した総所得金額、退職所得金額及び山林所得金額を課税標準とするものであります。

議員御指摘の移住後に所得が下がった場合でも、昨年の所得に対する高い税金を納めなければならないことにつきましては、現行法上、救済する措置は規定されていないこと、また、移住者のみへの減免については税の公平性を欠くことがあることなどから、本市としては税制面での対応は現時点では考えてございません。以上であります

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 私からは、こみせを生かしたまちづくりについての景観行政についてお答えさせていただきます。

広大で豊かな自然環境に恵まれ、城下町の歴史ある町並みを今に残す当市の景観は、市民の暮らしを豊かにするとともに、訪れる多くの人々を魅了するものであります。この魅力ある景観を総合的に高め、活力やにぎわいあるまちづくりを進め、黒石らしい良好な景観を保全及び形成し次世代へ引き継ぐことを目的として、本市は平成27年3月に景観法に基づき景観行政団

体となりました。

具体の取り組みといたしましては、景観づくり条例制定、景観計画策定により、歴史的な町並みを残す地区及びまちづくり活動が展開される中心市街地などを「まちなか景観づくり推進地区」に、それ以外の区域を「その他の地区」に定め、建築物等の建築行為に対して景観法に基づく届け出を義務づけし、意匠や色彩などの規制誘導を行っております。

次に、くろいし景観資産を活用した取り組みとして、地域独自の魅力ある数多くの建物や樹木並びに眺望や祭礼などの景観資源を景観資産に指定することで景観の意識を高め、保全活動などの普及啓発を図っており、現在、景観資産数は建物25件、樹木23件及び祭礼1件の計49件となり、景観ガイドブックにより、広く周知しております。さらに、文化財及び景観資産の魅力を再認識することを目的としたウォーキングツアーも実施しており、今年度第1回目のツアーには36人参加しております。

また、景観学習教室を活用した取り組みとして、小学生を対象に、景観を通じてまちあるき学習を実施しており、みずから思考することで地域に愛着や誇りを醸成させ、将来の黒石を担う人材育成を目的とし、それに参加した児童数は、平成21年度からの10年間で573人となっております。

このほか、東北地方の景観形成都市94市町村で構成された東北都市景観協議会に参加し、景観形成に関する調査・研究及び景観推進方法の検討を行うとともに、景観行政団体として先進事例や情報共有を図っており、今後も普及啓発に努めてまいります。以上です。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 私からは、こみせを生かしたまちづくりの中で、こみせの保存・再生についてと歴史・文化の検定について、また、第2回黒石市民運動会については、その内容と課題についてをお答えいたします。

まず、こみせの保存・再生についてですが、中町伝統的建造物群保存地区の中で、これまで松の湯交流館や白戸家住宅、古川家住宅にこみせを復元してまいりました。現在は、こみせ修景標準図をもとに、こみせの修理・修景に対する補助金の概要を地区住民に示し、復元していただけるよう取り組んでおり、複数の地区住民の方が検討しているところです。

次に、歴史・文化に関する検定についてであります。市民の関心を高める有効な手段と考えられますが、教育委員会では2年ほど前から子供向け教材としてクイズ形式で初級・中級・上級の黒石検定を各小学校に配付しているほか、歴史講座や文化財、先ほど建設部長もおっしゃっていましたが、景観資産を取り入れた、それらをめぐるウォーキング、くろいし郷土かるたなどを実施しております。御指摘の検定に関しましては、他の施策と関連しながら検討してまいりたいと考えております。

続きまして、市民運動会についての内容についてですが、競技については、大玉運びや綱引き風船割り、大縄跳びなどの計7競技を実施いたしました。1,000メートル競走と地区対抗リレーの2競技についてはトラックでの実施を想定しておりましたので、会場変更に伴い中止といたしました。また、新競技として、幼児と保護者対象のお宝ひろいを実施したことで、昨年よりも幅広い年代の方々に参加していただけたものと考えております。

参加状況については、市内10地区協議会から、選手、応援の方を含め、約450人の参加がありました。

次に、課題について、各地区からの意見は出ていないかとのことでありますが、今回開催された市民運動会については、おおむね好評を得ておりますが、市長と各地区との意見交換の場では、補助対象経費の見直しや増額などの意見が出されております。それらも含め、今月アンケート調査を実施することとしているところであります。以上です。

◎議長（北山一衛） 答弁漏れありませんか。

（なし）

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員の再質問を許します。10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） 御答弁ありがとうございました。それでは再質問は通告順にいきたいと思います。

まずは、一人暮らし世帯等の問題についての合葬墓ですけれども、これは今まで考えられなかったニーズだと思います。実際、秋田市で取り組んだ状況を見ると、びっくりするようなことが起こっているわけで、黒石市としては今後取り組む考えはあるのかお尋ねします。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 合葬墓の今後の取り組みという御質問でございますが、合葬墓の整備につきましては、従来型の墓地区画の追加造成、現在、姥懐霊園でも30余りの残りの区画がございます。その追加造成の必要性とともに検討すべき課題と捉えまして、既に合葬墓を整備している自治体、あるいは整備に向けて具体的な取り組みに入っている自治体の現状や課題などにつきまして、先進地の調査の実施も含めまして、検討を進めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） 合葬墓については、市民の要望が実際どのくらいあるのか、その辺の調査が必要ではないかと思っておりますので、何らかの方法で市民のニーズも調査しながら、これからの取り組みについて考えていただきたいと思います。これは要望ですので。

次の遺品の整理・活用についてということですが、歴史を伝え、歴史を残すということでは、現在、時代の分岐点にあるのかなというふうには私は考えております。今までは先祖代々のもの

があって、それを、家制度でもないですけど、跡継ぎが守ってきたという経緯があると思いませんけれども、近年一人暮らしの世帯の増加、跡継ぎがない世帯がふえている中で、今まで眠ってきたものが処分されるか、もしくは出てくるか、どちらかの分岐点にあるときではないかと思っています。黒石には博物館がないので、そういうわかりやすい歴史的な資産を受け入れる施設がないというのも問題となっているのかなと思います。先ほど可能だということですが、そういうものがあつたらどこに行けばいいのか、どういうふうにすればいいのか、そういった相談窓口等を考えていただけないかということで質問いたします。まず、どうすればいいのかも含めて。

◎議長（北山一衛） 総務部長。

◎総務部長（小林清一郎） 個別により事情は異なると思いますが、まずは、総務部総務課を窓口といたします。御相談いただければと思います。内容を確認の上、所管課となる課とともに対応してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） ありがとうございます。総務部総務課に行くと何とか話には乗ってくれるということで、そうしていろいろ対応していただければと思います。

これも提言になりますけれども、例えば、愛知・名古屋戦争に関する資料館というのがありまして、これは、県と市が合同で協力して資料の寄贈のお願いをしています。例えば、今は戦争のものですけれども、市だけが単独でやる方法もありますけれども、やはりこういったものは県とも協力するなど検討して、歴史的なものを今残さないと大変なことになる時期のような気がいたしますので、その辺の対応もよろしくお願ひしたいと思います。

2の人口減少対策について、アの出生数と支援についてですけども、さっきのデータでは200人を割っているというデータが出ています。平成8年と9年には出生数が400人を超えていました。しかし、平成28年29年には200人を割っています。昨年は176人ということですが、これは非常に問題なのかなと思っています。市の子育て支援についてどのような対策をとっているのか、この数を踏まえて、もう一度お願ひいたします。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（阿保正一） 確かに平成の一桁のころには400人を超えていたのは、こちらも把握しております。それで、昨今の170人とか200人を切る数字になったということで、先ほど市長から、子供を産むための施策の展開、また、このたびのこの数字を受けて、市長より全庁を挙げての対策が指示されたところでございます。新たな施策の展開も検討しているところでございます。また、市長もある程度施策を御紹介いたしました。子育て支援策としてはこのほか、乳幼児の医療費無料化に加え、所得制限をかけずに小学生の入院に係る医療費を無料化

することで子育ての負担軽減を図る、子ども医療費給付事業、出産や子育てに不安を持ち支援を希望する家庭を訪問し、技術的な相談・指導・助言を行うほか、育児援助や家事援助など育児負担を軽減するための支援を行う、養育支援訪問事業、対象を6カ月児から未就学児までとし、インフルエンザ予防接種2回分の接種費用の一部を助成する、子供インフルエンザ予防接種費用助成事業、保育所等に通っていない乳幼児とその保護者が交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言などの援助を行う、子育て支援拠点事業などを実施しております。なお、人口減少対策としては、仕事づくりの施策を中心とした、黒石市まち・ひと・しごと創生総合戦略を推進することで、本市における人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって成長力を確保するとともに、黒石力のあふれる田園観光産業都市の実現を目指し、東北自動車道黒石インターチェンジを活用したロジスティクス戦略や黒石市中心市街地活性化基本計画などの策定・実施により、さらなる市の活性化を図っておりますが、いずれにしても、結果が出るまでには長期的なものと考えてございます。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） このままでいくと、ゆくゆくは中学校も1つでよくなるという数字にもなりますので、もっと早く手を打たなければならなかったなというところもあるかと思いたすけれども、早急な対策をお願いします。

イの流入政策についてとちょっと絡んでくるんですけども、インターネットで各市の暮らしやすさを比較するサイトがいろいろあります。大体不動産情報会社が行っているサイトです。例えば、平川市、黒石市と入力するとみんな出てくるわけです。平川市では市の特徴を、公共料金、教育、子育て、細かく分類してしまして、さらに子育ての中に、子育て関連の独自の取り組みという欄がありまして、そこには第3子以上に30万円支給、すこやか住宅支援補助金で20万円から100万円の補助金があると、そこには載っております。その欄のところを黒石市と比較して見てみると、黒石市は空白になっております。何も書いてありません。県内の市を全部見てみたんですけども、独自の取り組みを載せているのが10市のうち7市、何も書いていないのが黒石市と青森市とむつ市です。問題は2つあると思います。1つは、特出した子育て関連の独自の取り組みが余らないと、書くことがもしかしたらないのかという問題があるかと思いたす。2つ目の問題は、ほかの市町村では書いているワクチン接種助成や先ほどあった子育て包括支援センターとかの取り組みを黒石市は何も書いていないんですよね。ですから、ほかの市が載せている取り組みあるのに黒石市のところには載っていない。この2つの問題があるかと思いたす。実際、ネットで若い人が比較すると、残念ながら黒石市に魅力が、そのほかも含めまして見当たらないというのが現状であります。これが現実と思いたす。そういったことがネットで調べると起こっているということを、自分で調べてみて非常に勉強にな

りましたけれども、こういうことについてどうすればいいのか、考えがあれば答弁をお願いします。

◎議長（北山一衛） 企画財政部長。

◎企画財政部長（阿保正一） ただいま御指摘のネット上のサイトですが、承知してございません。どういうデータどりをしたのか等々わかりかねますので、議員さんのお話をお聞きしながら、その経緯等々まとめてみたいと思います。いずれにしても、いつも言われております施策の市民等への情報提供をもうちょっと強化して進めていかなければならないと反省するとともに、力強く進めたいと思っております。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） 市民だけではなくて外にも情報を発信しないと、比較されるという現状もありますので、そちらのほうの情報も開いて、ぜひとも対応していただきたいと思います。

あと、ウの首都圏からの移住についてです。これは、私も税制の問題でどうするという回答はできませんと答えるしかなかったんですけども、税制上はできなくても、例えば住宅の関連で何か支援するとか、衣食住で何でもいいんですけども、税制はできなくてもほかの面で、この現実を考えれば何かしらの支援が必要かなというふうに考えるところもありますので、これからの課題として支援策を考えていただきたいと思います。提言です。

3番のこみせを生かしたまちづくりについてですけれども、まず、こみせの保存・再生について。萩市ではいろんなものを含めて1,600個以上の遺品・遺産が今でも残っています。黒石市では修理・修景ということでは進んでいると思うんですけども、どうしてもこみせがない部分、欠けている部分の再生が進んでいない。そこが悩みだというふうに私も思っていますけれども、その辺の再生が進まない理由は何か、さらなる問題点は何なのかをお尋ねします。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 議員おっしゃるとおり、駐車場、空き地・空き家など、こみせの復元が困難な場合もございます。一部個人負担を伴うこともあって、思ったように進まない現状となっていることも確かであります。教育委員会といたしましては、復元するこみせの形状を工夫することや補助事業の周知を徹底し、所有者等の理解を得られるよう、これまで以上に努力してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） 個人所有のものなので、市が勝手に建てるわけにはいかないもので、その辺は難しいとは思いますが、今、電線地中化等整備されている中で、やはりこみせの復元はぜひとも取り組んでいただきたい課題ですので。すぐはできないでしょうけれども、こみせが将来的にはつながることを期待したいと思います。

次、景観行政についてですけれども、萩市では景観についての規制・基準、取り組みは徹底しておりましたけれども、実は行政施設の取り組みもすごいものでした。私たちが行った役所は2階建てで瓦屋根ですし、近くにあった中学校も屋根が瓦で和風の建物になっています。また、昔あった元の藩校ですね、それを今改修して活用も始めております。民間に協力してもらうには、まず行政施設が模範を示すことが、萩市を見て重要だと思いました。財政難の当市ですけれども、こみせの再生を促すためにも、行政がまずそういうのに取り組んでいるんだよという考えが必要だと思えますけれども、その辺について考えがあればお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 建設部長。

◎建設部長（鳴海真一） 行政施設における景観への取り組みということになるかと思えますけれども、学校施設など市有建築物については、周囲の眺望を鑑み、景観を損なわないよう高さや色彩に配慮するとともに、街灯及び案内板等の工作物についてもユニバーサルデザインを取り入れながら、周囲の景観に調和した良好な景観を推進しております。

また、本年度策定予定の歴史的景観形成計画の地区でもある前町及び中町並びに横町、上町、元町などについては、街なみ環境整備事業を活用し、外観を重要伝統的建造物群保存地区の景観に調和した修景整備となるよう、民間所有者に積極的に働きかけ、昔ながらの風情と情緒ある黒石らしい良好な景観の保全及び形成に努めてまいりたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） 今、小学校も新築しております。決まっているのであれですし、予算の問題もありますけれども、例えば学校などにそういう景観などがあれば、子供たちもそういう景観を大切にする、誇りとかそういうのを養うことにもなりますので、許せばそういうこともしていければいいと思うこともあります。

これも提言ですけれども、萩市ではワンコイントラストという事業を行っております。指定しているものは役所でやってくれるし、持ち主もそれなりにやるのですけれども、それ以外のものの修繕にワンコイントラストでお金を集めて、それを活用して指定以外のものを修理・修景とかをして、全体の景観を高めていっているという事業もありました。広く市民と一緒に景観を形成していけるようになればいいかなというふうに思っております。これは提言です。

あと、ウの歴史・文化の検定についてですけれども、歴史検定とか何市検定とか、現在多くの市町村で行っています。萩市で私が興味を持ったのは、工藤議員も言いましたけれども、小学校5・6年生に萩ものしり博士検定を行っているというところでした。市内の5・6年生、最初は全員でなかったのですけれども、今では全員検定を受けているということでありました。また、平成25年から新たに行っている萩・幕末維新検定というものもありまして、これは市民だけではなくて、観光客にも幕末の知識をうまく問いかけて、観光客も視野に入れた検定になっ

ておりました。歴史・文化の検定について、黒石はこれからどのように考えるのかなということで、先ほどの答弁もありましたけれども、やはり他市町村もやっている中で、こういった効果・目的を持ってやるのか、その辺の調査などをもう一度してみてもいいのかなと思いますけれども、その辺についてお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 先ほども答弁いたしましたけれども、小学校では黒石発見ものしりクイズというふうなものを行っています。文化財編、人物編、その他の編ということで、初級・中級・上級に分かれています。これを検定にしても、すぐできそうな感じにはなっております。そちらも活用しまして、今後、他の同じような施策、商工観光課とも連携するほか、検定に合格した市民やさらなる高みを目指す市民に対する対応などを整理して環境を整え、総合的に検討を加えて、実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。以上であります。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） もうそういうことに対しては取り組んでいるという現実もあるということですが、まず子供たち、そして市民が自分たちのまちのことを知るということが非常に重要ですし、知ることによって誇りを持つ、そして、観光客にも胸を張ってアピールできる、そんなまちにしていなければなと思います。

4番目の第2回黒石市民運動会についてです、雨の影響で変更になったわけですが、変更になった経緯と周知方法はどうかお尋ねいたします。私の知っているところでは変更になったことを知らないで、運動公園に行った市民もいたそうですけれども、問題はなかったのかお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 開催場所が変更になった経緯でございますけれども、運動会前日の8月25日に台風20号が接近してその影響が心配されることから、参加者や応援の方々の安全の確保や会場の準備が困難な状況であるため、黒石運動公園からスポカルイン黒石に変更したものであります。周知方法についてですが、早めの決断をし、各地区協議会の皆さんに連絡するとともに、市のホームページと市内報道機関に掲載依頼をして周知を図ったところであります。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） それでもわからなかった人もいたというのも事実ですので、やはり周知方法はもう少し考えてもよかったかなと思います。

あと、イの課題についてです。各地区の意見・アンケートはこれからだと聞きましたけれども、

私も聞いた、実際やってみて思ったんですけども、日時の設定について、やはり各地区の人は人集めに苦労していたと思います。特に小学生が大変でした。夏休み明けの最初の日曜日で、各スポーツの大会・練習などがあって、5・6年生は聞いたところほとんどだめということがありました。また、夏休み中なので学校に周知ができない。じゃあどうしようかと考えた時、もう周知もできないという問題もありました。子供たちが来ないと一緒に来る若い親たちも来ないわけで、同じ時期にやるんなら、せめて夏休み前に周知ができるようにしてもらわないと、小学生が出るのは難しいということと、または開催時期を別な時期にずらすとか、2つのことの検討が、どちらかということが必要だと思いますけれども、そういったことについて、検討についてお尋ねいたします。

◎議長（北山一衛） 教育部長。

◎教育部長兼市民文化会館長（成田秀範） 開催日については、前回地区協議会の皆さんとも話しています。今第2回目ということでありまして、3回目4回目と、その都度大会の日になちを変更したりしていると他の団体との日程調整等が難しいということもありまして、8月の第4日曜日あたりに、暗黙の了解でありますけれども、ここでいってはどうかという話にはなっているところであります。

参加者をふやすための対策としては、昨年度、僅差での勝敗が決まったこともありまして、今年度から競技だけでなく、地区の人口の割合と参加人数で、何%いった場合は加点をするという参加するだけでも点数になるということも実施しております。来月予定している各地区へのアンケート調査の意見をもとに、競技内容の充実を検討していくとともに、各地区に対し早目の周知を図ることで、今年度よりも早い時期から参加者の募集ができる体制を整えて、より多くの方々に参加していただけるように努めていきたいと考えております。以上です。

◎議長（北山一衛） 10番大溝雅昭議員。

◎10番（大溝雅昭） 競技内容も含めて早く教えてもらえれば対応もできますので、ぜひともそういうふうに進めていっていただきたいと思います。運動会自体は別に悪いものだと言っているわけではありませんので、積極的に人を集めてやっていただければ。また、スポカルイン黒石でやったら逆に見やすいし、参加している人もあずましいという面もありますので、その辺も新しい検討課題なのかなと感じました。また、大いに、中身を吟味しながらいいものにしていただければなと思います。以上で質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（北山一衛） 以上で、10番大溝雅昭議員の一般質問を終わります。

◎議長（北山一衛） 本日はこれにて散会いたします。

午後 2時48分 散 会

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により、ここに署名する。

平成 3 0 年 9 月 1 9 日

黒石市議会議長 北 山 一 衛

黒石市議会議員 工 藤 和 子

黒石市議会議員 村 上 隆 昭